3-289-450-**02**(1)

SONY

# マルチチャンネル AV レシーバー

取扱説明書

STR-DG820

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

## ⚠警告



火災　感電

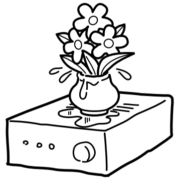
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

---

機器を水滴のかかる場所に置かないこと。及び水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。



禁止

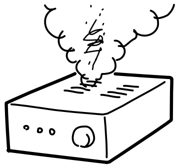


---

機器は電源コンセントの近くでお使いください。異常な音やにおい、煙がでたときはすぐに電源コンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。



指示



---

## ⚠注意

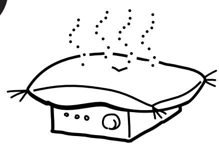
下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

---

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。



禁止



# この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS **（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

*ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
**米国特許番号 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS は登録商標です。また DTS ロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。


マルチチャンネル AV レシーバーは、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

“Neural Surround”、”Neural Audio”、”Neural”ならびに“NRL”は、Neural Audio Corporation の登録商標およびロゴです。

THX は、THX 社の登録商標です。無断複写・転載を禁じます。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

# 目次

## その他の操作をする



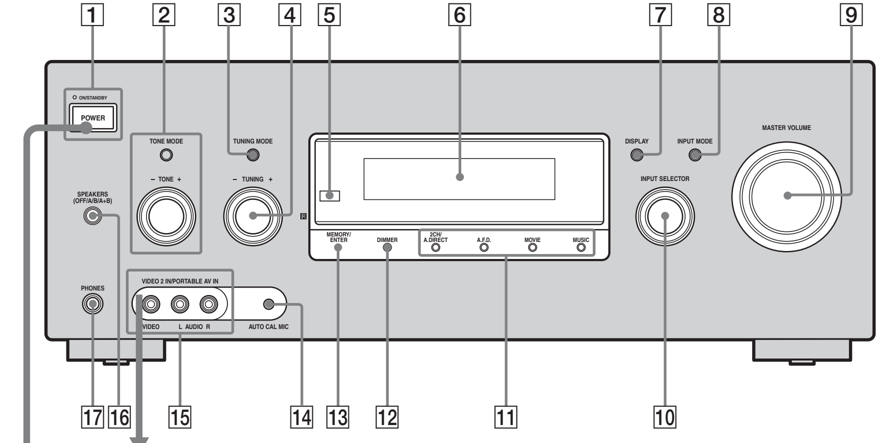
## リモコンを使う



## その他

# 各部の名前と働き

## 本体前面







### カバーをはずすには

PUSHを押します。
はずしたカバーは、お子様の手の届かないところに保管してください。

### POWER（電源）ボタンの状態について



オフ
本機の電源は切れています（初期設定）。
ON/STANDBYランプは消えています。
POWER（電源）ボタンを押して電源を入れます。
リモコンで本機の電源を入れることはできません。

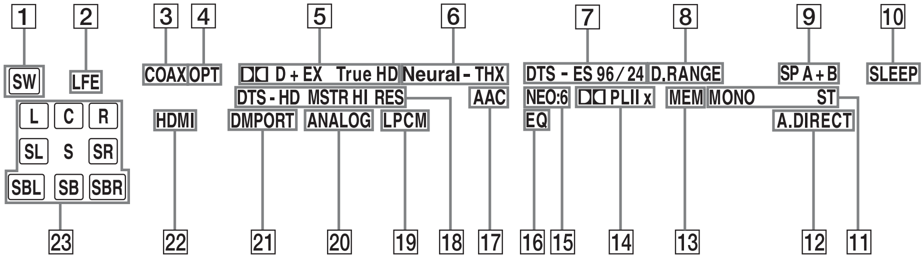


オン／スタンバイ
電源が入っているときに、リモコンのI/⏻を押すと、スタンバイ状態になります。POWER（電源）ボタンを押すと、本機の電源は切れます。
本機の電源が入るとON/STANDBYランプが緑色に点灯します。本機がスタンバイ状態になると赤く点灯します。

| | 名称 | 働き |
|---|---|---|
| 1 | POWER（電源） | 本機（アンプ）の電源を入／切します（6、31、41、42ページ）。 |
| | ON/STANDBYランプ | 本機の状態を表します。（6ページ） |
| 2 | TONE MODE<br>TONEつまみ | フロントピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。TONE MODEをくり返し押して、BASSまたはTREBLEを選びます。続けてTONEつまみを回してレベルを調節します（31、51ページ）。 |
| 3 | TUNING MODE | 選局モードを選びます（63、66ページ）。 |
| 4 | TUNING +/－つまみ | 聞きたい放送局を選びます（63、66ページ）。 |
| 5 | リモコン受光部 | リモコンからの信号を受信します。 |
| 6 | 表示窓 | 選んだ機器の状態や、選択できる項目などを表示します（8ページ）。 |
| 7 | DISPLAY | 表示窓に表示される情報を切り換えます（80、93ページ）。 |
| 8 | INPUT MODE | 同じ機器をデジタルとアナログ両方の入力端子につないでいる場合に、入力信号の優先順位を設定します（75ページ）。 |
| 9 | MASTER VOLUMEつまみ | すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（39、40、41、42ページ）。 |
| 10 | INPUT SELECTORつまみ | 再生する入力ソースを選びます（40、63、66、75、79、81ページ）。 |
| 11 | 2CH/A.DIRECT<br>A.F.D.<br>MOVIE<br>MUSIC | サウンドフィールドを選びます（31、56、57、61ページ）。 |
| 12 | DIMMER | 表示窓の明るさを切り換えます。 |
| 13 | MEMORY/ENTER | 放送局を登録したり、選んだ設定を決定します（64、65ページ）。 |
| 14 | AUTO CAL MIC端子 | 自動音場補正機能で使用する付属のマイクをつなぎます（33ページ）。 |
| 15 | VIDEO 2 IN/PORTABLE AV IN端子 | ビデオカメラやテレビゲーム機などのポータブルオーディオ／映像機器をつなぎます。 |
| 16 | SPEAKERS（OFF/A/B/A+B） | フロントスピーカーのOFF、A、B、A+Bを切り換えます（32ページ）。 |
| 17 | PHONES端子 | ヘッドホンをつなぎます（91ページ）。 |

次のページへつづく

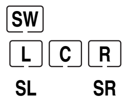
## 表示窓に点灯する項目と働き



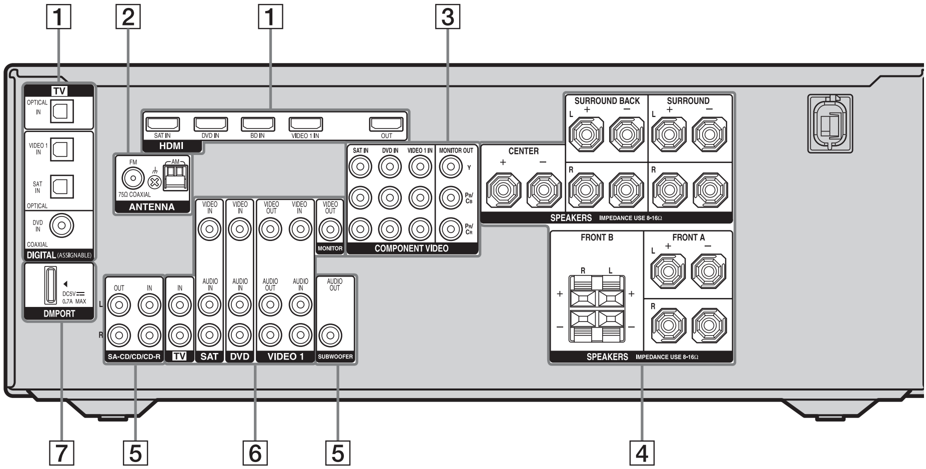

| 名称 | 働き |
|---|---|
| 1 SW | サブウーファーをつないでいる場合、音声信号がSUB WOOFER端子から出力されているときに点灯します。 |
| 2 LFE | 入力信号にLFE（重低音効果）のチャンネルが存在しているときや、実際にLFE信号の音が再生されているときに「LFE」の文字が点灯します。 |
| 3 COAX | INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「COAX」に設定されているときに点灯します（75ページ）。 |
| 4 OPT | INPUT MODEを「AUTO」に設定していて、デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「OPT」に設定されているときに点灯します（75ページ）。 |
| 5 □□D/<br>□□D EX/<br>□□D+/<br>□□TrueHD | □□DはDolby Digital信号をデコードしているときに点灯します。<br>□□D EXはドルビーデジタルサラウンド信号をデコードしているときに点灯します。ドルビー EXデコードしているときに「EX」も点灯します。<br>□□D+はDolby Digital Plus信号をデコードしているときに点灯します。<br>□□True HDはDolby TrueHD信号をデコードしているときに点灯します。<br><br>**ご注意**<br>ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「AUTO」になっていることを確認してください（75ページ）。 |
| 6 Neural - THX | 入力信号にNeural-THX処理をしているときに点灯します。 |

| | 名称 | 働き |
|---|---|---|
| 7 | DTS/<br>DTS-ES/<br>DTS 96/24 | DTS信号をデコードしているときに点灯します。<br>DTS-ES信号をデコードしているときに「-ES」も点灯します。<br>DTS 96 kHz/24ビット信号をデコードしているときに「96/24」も点灯します。<br><br>**ご注意**<br>DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「AUTO」になっていることを確認してください（75ページ）。 |
| 8 | D.RANGE | ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（47ページ）。 |
| 9 | SP A/SP B/<br>SP A+B | 使用しているスピーカーシステムを表示します（32ページ）。スピーカースイッチをOFFに設定しているとき、またはヘッドホンをつないでいるときは消灯します。 |
| 10 | SLEEP | スリープタイマーが働いているときに点灯します（80ページ）。 |
| 11 | **チューナー表示** | ラジオを聞いているときなどに点灯します（63ページ）。 |
| 12 | A.DIRECT | アナログダイレクト信号を処理しているときに点灯します。 |
| 13 | MEM | プリセットなどの、メモリー機能が働いたときに点灯します（65ページ）。 |
| 14 | DDPL/<br>DDPLII/<br>DDPLIIx | 2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。ドルビープロロジックII処理を行っているときに「DDPLII」と点灯します。また、ドルビープロロジックIIx処理を行っているときに「DDPLIIx」と点灯します。<br>ただし、センターとサラウンドスピーカーがないとき、A.F.D.を押してサウンドフィールドを選んでいるときには、これらの表示は点灯しません。 |
| 15 | NEO:6 | DTS Neo:6のシネマ／ミュージック処理を行っているときに点灯します（57ページ）。 |
| 16 | EQ | イコライザーが働いているときに点灯します。 |
| 17 | AAC | MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。<br><br>**ご注意**<br>MPEG-2 AACは、アルゴリズム：（LC（Low Complexity））にのみ対応しています。 |
| 18 | DTS-HD MSTR/<br>DTS-HD HI RES | DTS-HD MSTRはDTS-HD Master Audio信号をデコードしているときに点灯します。<br>DTS-HD HI RESはDTS-HD High Resolution信号をデコードしているときに点灯します。 |
| 19 | LPCM | リニアPCM音声信号が入力されたときに点灯します。 |
| 20 | ANALOG | INPUT MODEを「ANALOG」に設定しているとき、またはINPUT MODEが「AUTO」に設定されていて、デジタル信号が入力されていないときに点灯します（75ページ）。 |
| 21 | DMPORT | デジタルメディアポートアダプターをつないで、入力に「DMPORT」を選んでいるときに点灯します。 |

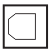
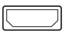
次のページへつづく

| | 名称 | 働き |
|---|---|---|
| 22 | HDMI | HDMI IN端子につないだ機器が認識されているときに点灯します（25ページ）。 |
| 23 | **再生チャンネル表示** | 現在本機が出力しているチャンネルを表示します。<br>文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。 |
| | L | フロント左 |
| | R | フロント右 |
| | C | センター（モノラル） |
| | SL | サラウンド左 |
| | SR | サラウンド右 |
| | S | サラウンド（モノラル／プロロジック処理されたサラウンド成分） |
| | SBL | サラウンドバック左 |
| | SBR | サラウンドバック右 |
| | SB | サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンド成分）<br>**例：**<br>スピーカーパターン：3/0.1<br>記録形式：3/2.1<br>サウンドフィールド：A.F.D. AUTO<br> |

## 本体後面




### 1 デジタル入出力部

| | | |
|---|---|---|
|  | OPTICAL IN（光）デジタル音声入力端子 | DVDプレーヤーなどをつなぎます（21、27、28、29ページ）。 |
|  | COAXIAL IN（同軸）デジタル音声入力端子 | |
|  | HDMI入出力端子＊ | DVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（25ページ）。 |

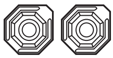
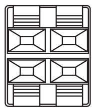
### 2 アンテナ入力部

| | | |
|---|---|---|
|  | FM75Ω同軸アンテナ端子 | 付属のFMワイヤーアンテナをつなぎます（30ページ）。 |
|  | AMアンテナ端子 | 付属のAMループアンテナをつなぎます（30ページ）。 |

### 3 コンポーネント映像入出力部

| | | |
|---|---|---|
|  緑（Y）<br> 青（$P_B$/$C_B$）<br> 赤（$P_R$/$C_R$） | Y、$P_B$/$C_B$、$P_R$/$C_R$入出力端子＊ | DVDプレーヤー、テレビ、衛星放送チューナーなどとつなぎ、より高画質な映像を楽しめます（21、27、28、29ページ）。 |

### 4 スピーカー出力部

| | |
|---|---|
|  | スピーカーをつなぎます（19ページ）。 |
|  | |

### 5 音声入出力部

| | | |
|---|---|---|
|  白（L）<br> 赤（R） | 音声入出力端子 | スーパーオーディオCDプレーヤーなどをつなぎます（21、23ページ）。 |
|  黒 | 音声出力端子 | サブウーファーをつなぎます（19ページ）。 |

次のページへつづく

### 6 映像と音声の入出力部

| | | |
|---|---|---|
| 白 (L)<br>赤 (R) | 音声入出力端子 | ビデオデッキ、DVDプレーヤーなどの映像と音声をつなぎます（27～29ページ）。 |
| 黄 | 映像入出力端子* | |

### 7 DMPORT（拡張用の端子）

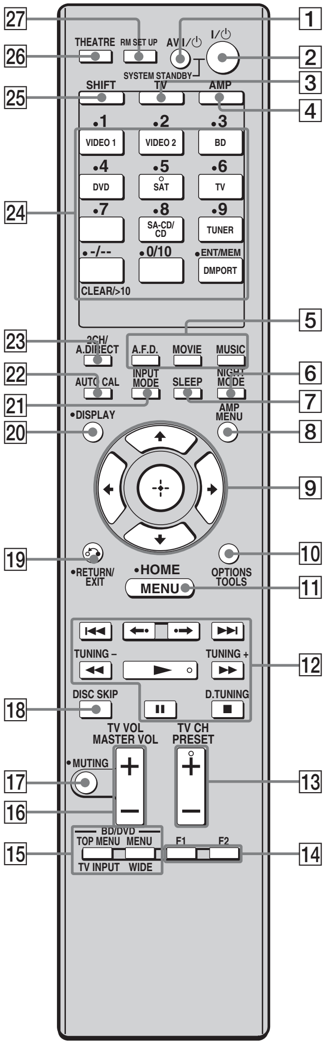
| | | |
|---|---|---|
| | デジタルメディアポート端子（DMPORT端子） | ソニー製のデジタルメディアポートアダプターをつなぎます（78ページ）。 |

* お手持ちのテレビをHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（21、25ページ）。

## リモコン

付属のリモコンを使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器などを操作できます（82ページ）。

RM-AAP022



| リモコンのボタン | | 機能 |
|---|---|---|
| 1 | AV I/⏻（電源オン／スタンバイ） | リモコンに登録されている機器の電源を入／切します。テレビの電源を入／切するときは、TV（3）を押してからAV I/⏻を押します。I/⏻（2）と同時に押すと、本体と、他のソニー製オーディオ／映像機器の電源を切ります（SYSTEM STANDBY）。<br>**ご注意**<br>AV I/⏻の機能は、入力切り換え用ボタン（24）を押すたびに自動的に切り換わります。 |
| 2 | I/⏻（電源オン／スタンバイ） | 本体の電源を入／切します。すべての機器の電源を切るときは、I/⏻とAV I/⏻（1）を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。スタンバイ中に消費電力を抑えるには、「CTRL: HDMI」を「CTRL OFF」に設定します（46ページ）。 |
| 3 | TV | ボタンを点灯させると、黄色のマークのボタンの操作が有効になります。また、↑/↓/←/→/⊕（9）、OPTIONS TOOLS（10）、MENU/HOME（11）、RETURN/EXIT↶（19）、DISPLAY(20)ボタンを使ってソニー製テレビのメニュー操作を有効にします。 |
| 4 | AMP | ボタンを点灯させて、本機のリモコン操作を有効にします（35ページ）。 |
| 5 | A.F.D.<br>MOVIE<br>MUSIC | サウンドフィールドを選びます（56、57ページ）。 |
| 6 | NIGHT MODE | NIGHT MODE機能を有効にします（60ページ）。 |
| 7 | SLEEP | スリープタイマーを有効にし、本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します（80ページ）。 |
| 8 | AMP MENU | メニューを表示窓に表示させるときに押します。 |

| リモコンのボタン | | 機能 |
|---|---|---|
| 9 | ⊕<br>↑/↓/←/→ | 本機を操作するときは、AMP（4）を押してから、MENU/HOME（11）を押します。続いて↑/↓/←/→を押して項目を選び、⊕を押して選択を決定します。<br>DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダーのメニューを操作するときは、BD/DVD TOP MENU（15）またはBD/DVD MENU（15）を押してから、↑/↓/←/→を押して項目を選び、⊕を押して選択を決定します。<br>本機や、ビデオデッキ、衛星放送チューナー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで選択を決定するときも、⊕を押します。 |
| 10 | OPTIONS<br>TOOLS | DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダーのオプションメニューを表示、選択します。<br>ソニー製テレビのオプションメニューを表示するときは、TV（3）を押してから、OPTIONS TOOLSを押します。 |
| 11 | MENU/HOME | 本機や、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーのメニューをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕を使ってメニュー操作を行います。<br>ソニー製テレビのメニューを表示するときは、TV（3）を押してから、MENUを押します。 |

次のページへつづく

| | リモコンのボタン | 機能 |
|---|---|---|
| 12 | ⏮/⏭[a)] | ビデオデッキやCDプレーヤー、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDデッキ、DATデッキ、カセットデッキ、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーの前または後ろのトラックにスキップします。 |
| | ←・/ ・→ | DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで、前の場面を再生したり、現在の場面を早送りします。 |
| | ◀◀/▶▶[a)] | • CDプレーヤーやVCDプレーヤー、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、MDデッキ、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで、前または次のトラックをサーチします。<br>• ビデオデッキ、DATデッキ、カセットデッキで、早戻しまたは早送りをします。 |
| | ▶[a)b)] | ビデオデッキやCDプレーヤー、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDデッキ、DATデッキ、カセットデッキ、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで再生を始めます。 |
| | ❚❚[a)] | ビデオデッキやCDプレーヤー、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDデッキ、DATデッキ、カセットデッキ、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで、再生または録画を一時停止します。<br>また、録画スタンバイ状態の機器の録画を始めます。 |
| | ■[a)] | ビデオデッキやCDプレーヤー、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDデッキ、DATデッキ、カセットデッキ、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで、再生を止めます。 |
| | TUNING +/– | 放送局を受信します。 |
| | D.TUNING | 放送局を手動受信するモードにします。 |
| 13 | TV CH +[b)]/– | TV（3）を押したあとはテレビのチャンネルが切り換わります。 |
| | PRESET +[b)]/– | 登録した放送局を選びます。<br>ビデオデッキやDVDプレーヤー衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーで登録したチャンネルを選びます。 |

| リモコンのボタン | | 機能 |
|---|---|---|
| 14 | F1/F2 | DVD/HDDコンボプレーヤーやDVD/VHSコンボプレーヤーを選んでいるときに、F1またはF2を押して操作モードを切り換えます。<br>• DVD/HDDコンボプレーヤー<br>F1：HDD<br>F2：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー<br>• DVD/VHSコンボプレーヤー<br>F1：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー<br>F2：VHS |
| 15 | BD/DVD TOP MENU | DVDやブルーレイディスクのメニューやガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕を使ってメニュー操作を行います。 |
| | BD/DVD MENU | DVDやブルーレイディスクのメニューをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕を使ってメニュー操作を行います。 |
| | TV INPUT | TV（3）を押したあとTV INPUTを押して、入力信号を選びます（テレビ入力またはビデオ入力）。 |
| | WIDE | TV（3）を押したあとWIDEをくり返し押して、ワイド画面モードを選びます。 |
| 16 | TV VOL +/– | TV（3）を押したあとTV VOL +/–を押して、テレビの音量を調節します。 |
| | MASTER VOL +/– | すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。 |
| 17 | MUTING | 一時的に消音するときに押します。消音機能を解除する場合は再度MUTINGを押します。<br>TV（3）を押したあとMUTINGを押して、テレビの消音機能を有効にします。 |

| リモコンのボタン | | 機能 |
|---|---|---|
| 18 | DISC SKIP | マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。 |
| 19 | RETURN/ EXIT ↶ | VCDプレーヤーやLDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、衛星放送チューナーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニュー画面を解除するときに押します。<br>ソニー製テレビで前のメニューに戻るときは、TV（3）を押したあとRETURN/EXIT ↶を押します。 |
| 20 | DISPLAY | 表示窓や、ビデオデッキ、CDプレーヤー、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDデッキ、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、衛星放送チューナー、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーのテレビ画面に表示される情報を切り換えます。<br>ソニー製テレビの情報を切り換えるときは、TV（3）を押したあとにDISPLAYを押します。 |
| 21 | INPUT MODE | 同じ機器をデジタル端子とアナログ端子の両方につないでいるときに、AMP（4）を押したあとINPUT MODEを押してインプットモードを選びます（75ページ）。 |
| 22 | AUTO CAL | 自動音場補正機能を有効にします。 |
| 23 | 2CH/ A.DIRECT | 2チャンネルのステレオ音声で聞くことができます。または選んだ入力の音声を、調整を加えないアナログの信号に切り換えます（61ページ）。 |



次のページへつづく

| リモコンのボタン | 機能 |
|---|---|
| 24 入力切り換え用ボタン | 使用する機器を選びます。<br>入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるよう、以下のとおり設定されています。<br>リモコンに登録すると、他社製の機器を操作することもできます。詳しくは、「お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する」（82ページ）をご覧ください。 |

| ボタン | 選ばれている機器 |
|---|---|
| VIDEO 1 | ビデオデッキ（リモコンモード：VTR 3） |
| VIDEO 2 | ビデオデッキ（リモコンモード：VTR 2） |
| BD | ブルーレイディスクレコーダー |
| DVD | DVDプレーヤー |
| SAT | 衛星放送チューナー |
| TV | テレビ |
| SA-CD/CD | スーパーオーディオCD/CDプレーヤー |
| TUNER | 内蔵ラジオ |
| DMPORT | デジタルメディアポートアダプター |

| リモコンのボタン | 機能 |
|---|---|
| 数字ボタン[b)] | SHIFT（25）を押してから数字ボタンを押すと、<br>- FM/AMチューナーのプリセット番号や、周波数の入力ができます。<br>- CDプレーヤーや、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、MDデッキ、DATデッキ、カセットデッキのトラックを選びます。トラック番号10を選ぶときは、0/10を押します。<br>- ビデオデッキや衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーのチャンネルを選びます。<br>テレビのチャンネルを選ぶときは、TV（3）を押したあとに数字ボタンを押します。 |
| ENT/MEM | ビデオデッキやCDプレーヤー、VCDプレーヤー、LDプレーヤー、MDデッキ、DATデッキ、カセットデッキ、衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSXでチャンネルやディスク、トラックを選ぶとき、SHIFT（25）を押したあとに数字ボタンで選び、ENT/MEMを押して決定します。<br>ソニー製テレビでは、TV（3）を押したあとに数字ボタンで選び、ENT/MEMを押して決定します。<br>放送局を登録するときは、SHIFT（25）を押したあとに、ENT/MEMを押します。 |

| リモコンのボタン | | 機能 |
|---|---|---|
| | CLEAR/ > 10 | DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、HDDレコーダー、PSX、衛星放送チューナー、DVD/VHSコンボプレーヤー、DVD/HDDコンボプレーヤーを操作中に数字ボタンを押し間違えたとき、SHIFT（25）を押したあとにCLEAR/>10を押します。<br>CDプレーヤーやVCDプレーヤー、LDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキ、テレビ、ビデオデッキ、衛星放送チューナーで11番目以降のトラック番号を選ぶとき、SHIFT（25）を押したあとにCLEAR/>10を押します。 |
| | -/-- | ビデオデッキや衛星放送チューナーで2桁のチャンネルを入力するとき、SHIFT（25）を押したあとに-/--を押します。<br>テレビで2桁のチャンネルを入力するとき、TV（3）を押したあとに-/--を押します。 |
| 25 | SHIFT | 押してボタンを点灯させると、ピンクで印字されたボタンの操作が有効になります。 |
| 26 | THEATRE | 映画に適した画質と音質に自動的に調整して、本機につないだスピーカーに出力します。<br><br>**ご注意**<br>テレビがシアターモードに対応しているときのみ有効です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。 |
| 27 | RM SET UP | 押すと、リモコンの設定ができます。 |

a) これらのボタンを使って、デジタルメディアポートアダプターの操作ができます。ボタンの機能について詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

b) 数字ボタンの5/SATおよびTV CH +、PRESET +、▷には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

**ご注意**

- 機器によっては、使えない機能もあります。
- 機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。

# 準備1：スピーカーを設置する

本機では最大7.1チャンネル（スピーカー7本とサブウーファー1本）のスピーカーシステムを構成できます。

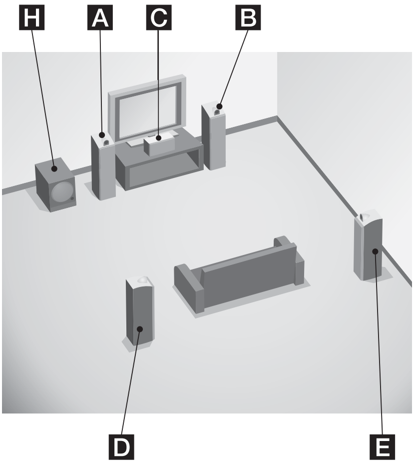
## 5.1/7.1チャンネルで楽しむ

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、

- 5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）
- サブウーファー

が必要です（5.1チャンネル）。

### 5.1チャンネルの設置例



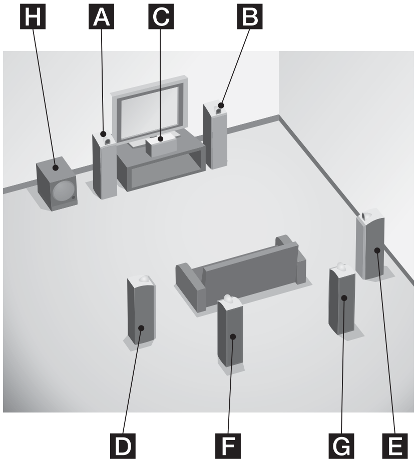

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
H サブウーファー

5.1チャンネルにさらに

- サラウンドバックスピーカー：1本（6.1チャンネル）
  または
- サラウンドバックスピーカー：2本（7.1チャンネル）

を追加することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDソフトを忠実に再現できるようになります。

### 7.1チャンネルの設置例



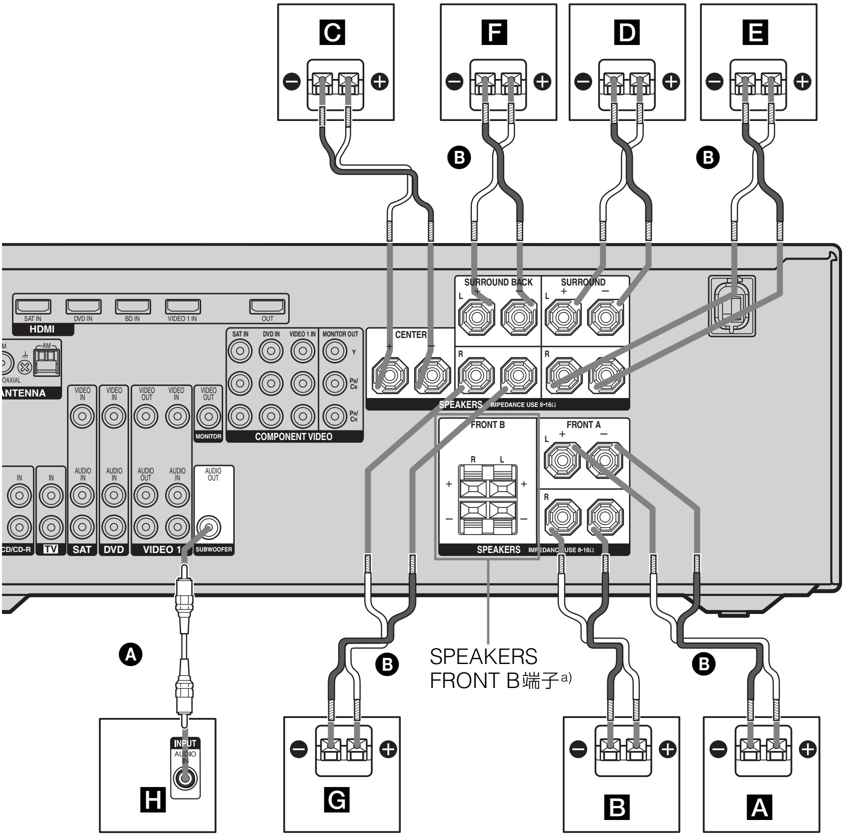

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サラウンドバックスピーカー（左）
G サラウンドバックスピーカー（右）
H サブウーファー

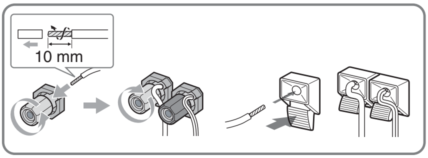
#### ちょっと一言

- 6.1チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します（49ページ）。
- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

# 準備２：スピーカーを接続する

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。




Ⓐモノラル音声コード（別売）
Ⓑスピーカーコード（別売）

**A** フロントスピーカー A（左）
**B** フロントスピーカー A（右）
**C** センタースピーカー
**D** サラウンドスピーカー（左）
**E** サラウンドスピーカー（右）
**F** サラウンドバックスピーカー（左）b)
**G** サラウンドバックスピーカー（右）b)
**H** サブウーファー c)

次のページへつづく

a) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、FRONT SPEAKERS B 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で選べます（32 ページ）。
b) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SPEAKERS SURROUND BACK L 端子につないでください。
c) オートスタンバイ機能があるサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、サブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイモードになり、音が出なくなることがあります。

**ご注意**

電源コードをつなぐ前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。

## スピーカーパターンを設定する

スピーカーの設置と接続が終わったら、SPEAKERメニューでスピーカーパターンを選びます（45ページ）。

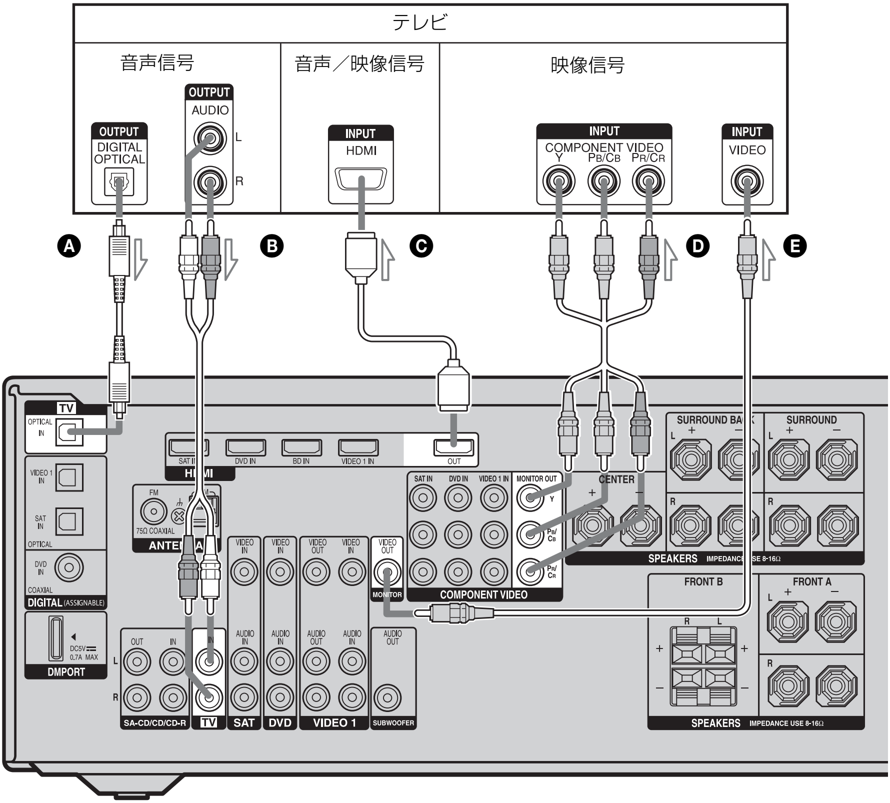
下表を参考に、スピーカーの設置方法に合わせてパターンを選んでください。

| | 接続したスピーカー | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| スピーカーパターン | フロント左/右 | センター | サラウンド左／右 | サラウンドバック　左 | サラウンドバック　右 | サブウーファー |
| 3/4.1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3/4 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 3/3.1 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 3/3 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 2/4.1 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2/4 | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 3/2.1 | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| 3/2 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 2/3.1 | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| 2/3 | ○ | | ○ | ○ | | |
| 2/2.1 | ○ | | ○ | | | ○ |
| 2/2 | ○ | | ○ | | | |
| 3/0.1 | ○ | ○ | | | | ○ |
| 3/0 | ○ | ○ | | | | |
| 2/0.1 | ○ | | | | | ○ |
| 2/0 | ○ | | | | | |

# 準備3：テレビを接続する

お手持ちのテレビをHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子に接続すると、選んだ入力の映像を見ることができます。

すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。
ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。




Ⓐ光（OPTICAL）デジタル接続コード（別売）

Ⓑ音声コード（別売）

ⒸHDMIケーブル（別売）

**ソニー製のHDMIケーブルを推奨します。**

Ⓓコンポーネント映像コード（別売）

Ⓔ映像コード（別売）

次のページへつづく

### ご注意

- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI OUT端子やMONITOR OUT端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- テレビとアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

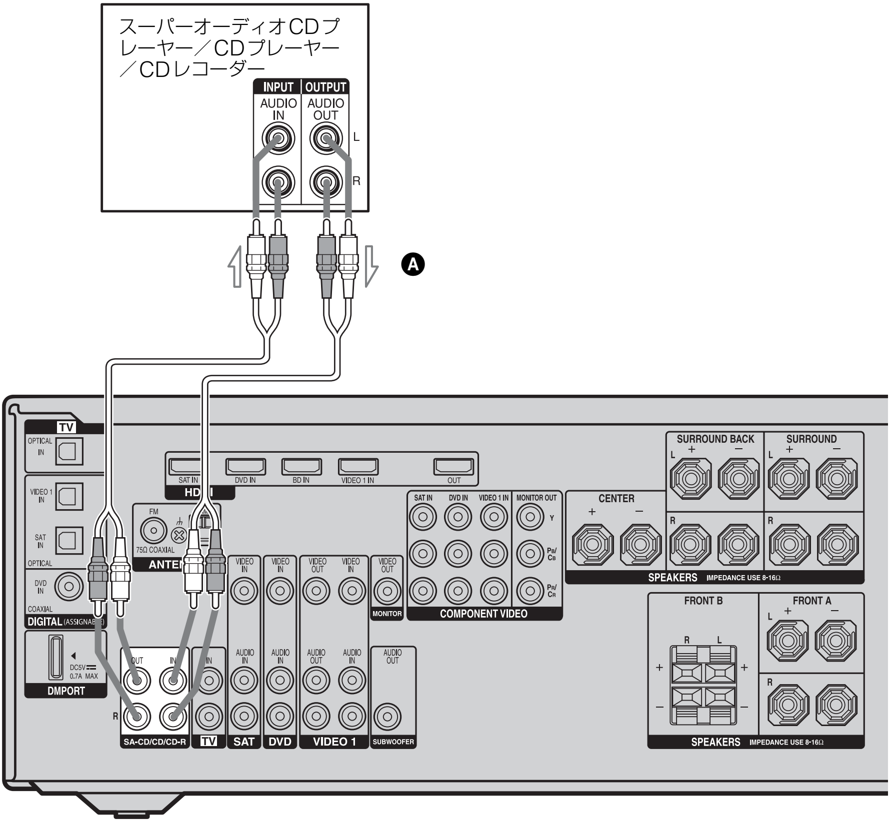
### ちょっと一言

- テレビの音声出力端子を本機のTV IN端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声は出ないようにしてください。
- 本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

# 準備４a：オーディオ機器を接続する

## スーパーオーディオCDプレーヤー／CDプレーヤーを接続する

スーパーオーディオCDプレーヤーやCDプレーヤー、CDレコーダーの接続例です。
ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
オーディオ機器を接続したら、「準備４b：映像機器を接続する」（24ページ）を行ってください。




A 音声コード（別売）

# 準備４b：映像機器を接続する

## お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。
すべての接続が終わったあと、「準備５：アンテナをつなぐ」（30ページ）へ進んでください。

### 接続機器一覧

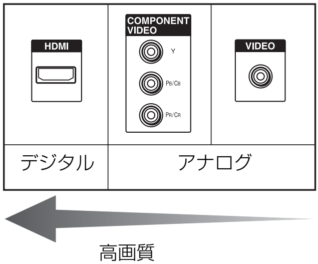
| 接続機器 | 説明ページ |
|---|---|
| テレビ | 21ページ |
| HDMI端子のある機器 | 25ページ |
| DVDプレーヤー | 27ページ |
| 衛星放送チューナー / セットトップボックス | 28ページ |
| DVDレコーダー／ビデオデッキ | 29ページ |
| ビデオカメラ／テレビゲーム機など | 29ページ |

### デジタル機器をつなぐ端子が足らないときは

「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（76ページ）をご覧ください。

## 接続する映像端子について

映像信号は次の図のような順によい画質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



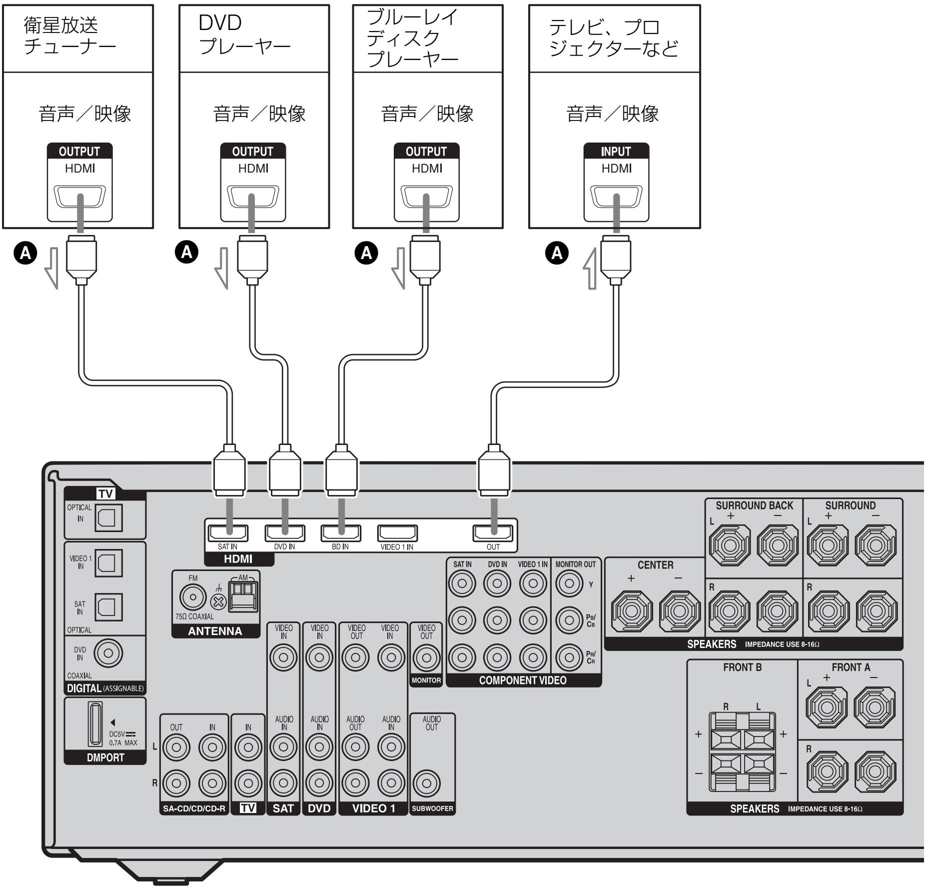

**ご注意**
- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。

## HDMI端子のある機器を接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。

### HDMI接続でできること

- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子から出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- 本機は、リニアPCM（サンプリング周波数192 kHz以下）で、8チャンネルまでのデジタル音声信号を、HDMIを使った伝送で受信することができます。
- HDMI Version 1.3で拡張されたHigh Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、xvYCC伝送に対応しています。
- 本機はHDMI機器制御機能に対応しています。詳しくは「“ブラビアリンク”機能を使う」（68ページ）をご覧ください。




ⒶHDMIケーブル（別売）

次のページへつづく

### 接続ケーブルについて

- HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルをお使いください。
- ソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI接続で解像度が1125p（1080p）の映像やDeep Colorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応（HDMI Version 1.3a、カテゴリー2）のケーブルを推奨します。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、「Digital Assign」の設定を行ってください。

### HDMI端子の接続のご注意

- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力とHDMI OUT端子から出力することができます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。VIDEO OUT端子とMONITOR OUT端子からは出力されません。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、HDMIメニューの「AUDIO OUT」を「TV+AMP」に設定してください（53ページ）。マルチチャンネルのディスクなどを再生できないときは、「AMP」に設定してください。ただし、「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。
- スーパーオーディオCDのDSD信号は入出力されません。
- スーパーオーディオCDのマルチチャンネル／2チャンネルの再生エリアの音声信号は出力されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI OUT端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、マルチチャンネルリニアPCMはHDMI接続でのみ楽しめます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。
- マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書をご確認ください。
- 各HDMI機器は、表記されているHDMIのVersionで定義されている機能をすべて包括しているものではありません。例えばVersion 1.3a対応機器がすべてDeep Colorに対応しているわけではありません。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

## DVDプレーヤーを接続する

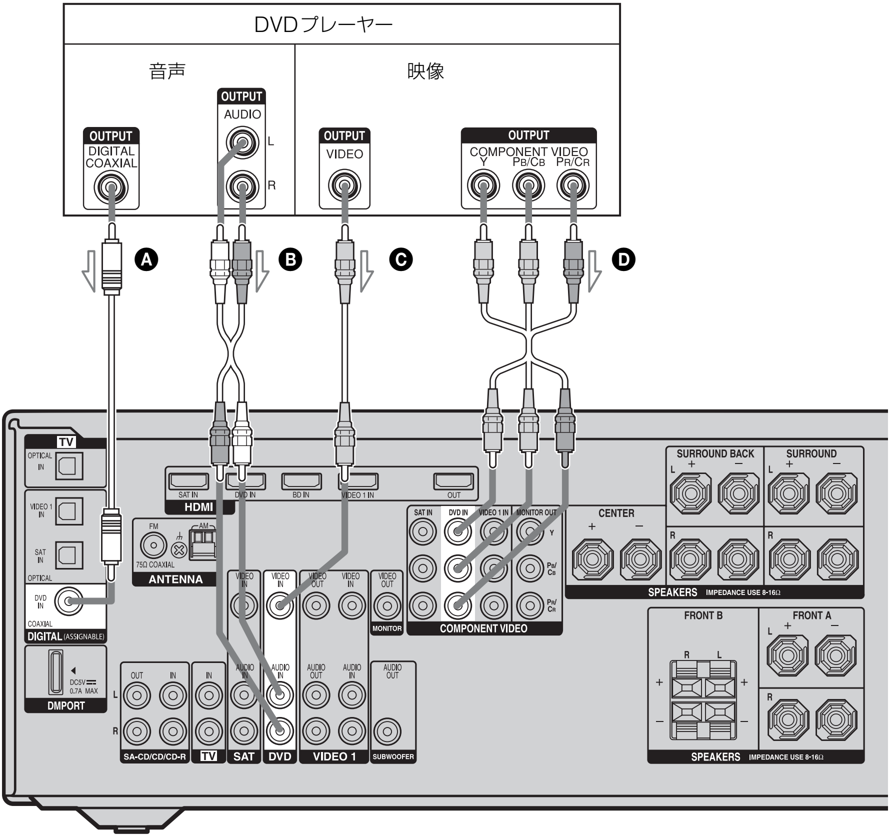
DVDプレーヤーの接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

### ご注意

マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVDプレーヤー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

### ちょっと一言

本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。




Ⓐ 同軸（COAXIAL）デジタル接続コード（別売）
Ⓑ 音声コード（別売）
Ⓒ 映像コード（別売）
Ⓓ コンポーネント映像コード（別売）

次のページへつづく

## 衛星放送チューナー／セットトップボックスを接続する

衛星放送チューナーやセットトップボックスの接続例です。

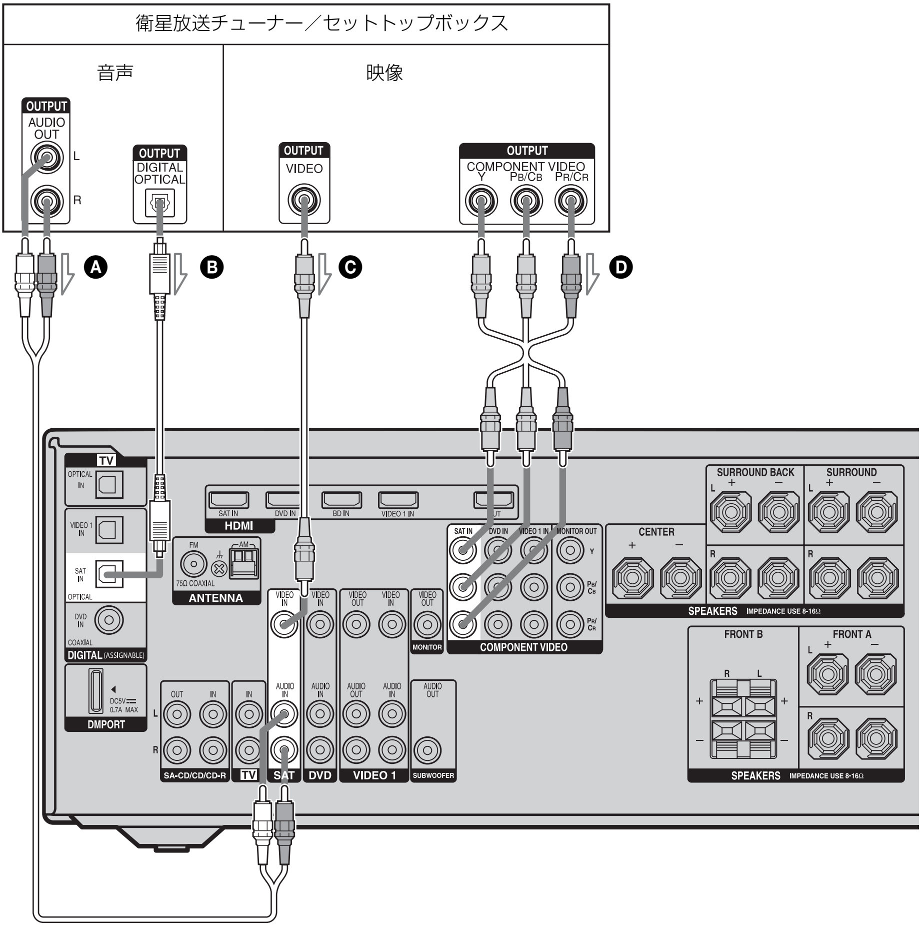
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

### ご注意

- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

### ちょっと一言

本機のDIGITAL音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。




Ⓐ音声コード（別売）

Ⓑ光（OPTICAL）デジタル接続コード（別売）

Ⓒ映像コード（別売）

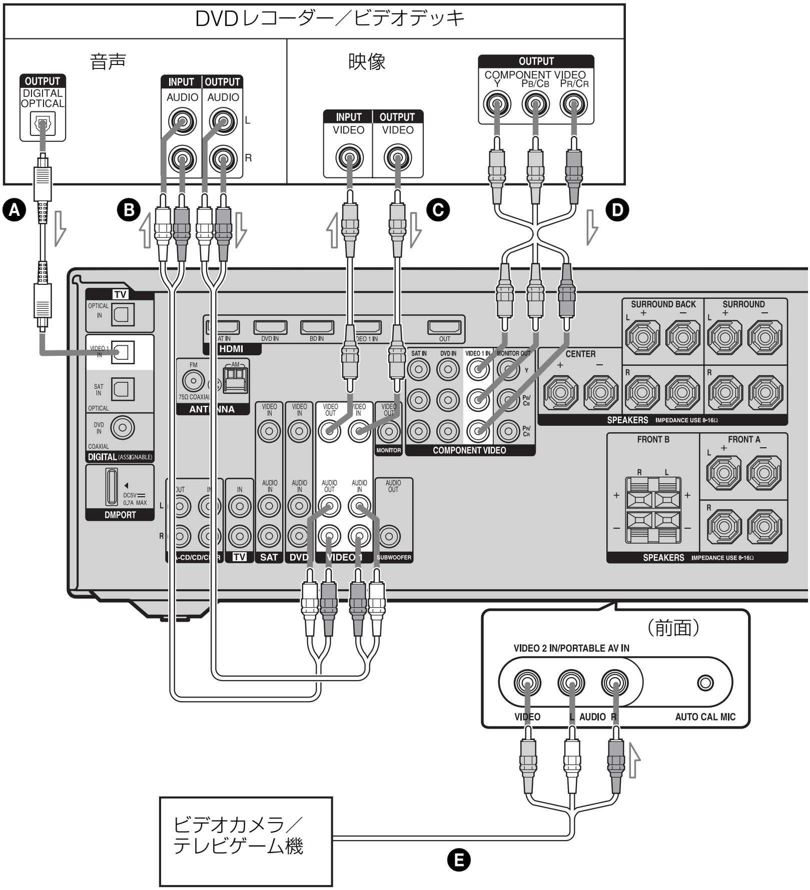
Ⓓコンポーネント映像コード（別売）

## アナログ映像／音声端子のある機器を接続する

DVDレコーダーやビデオデッキなどアナログ端子のある機器の接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

**ご注意**

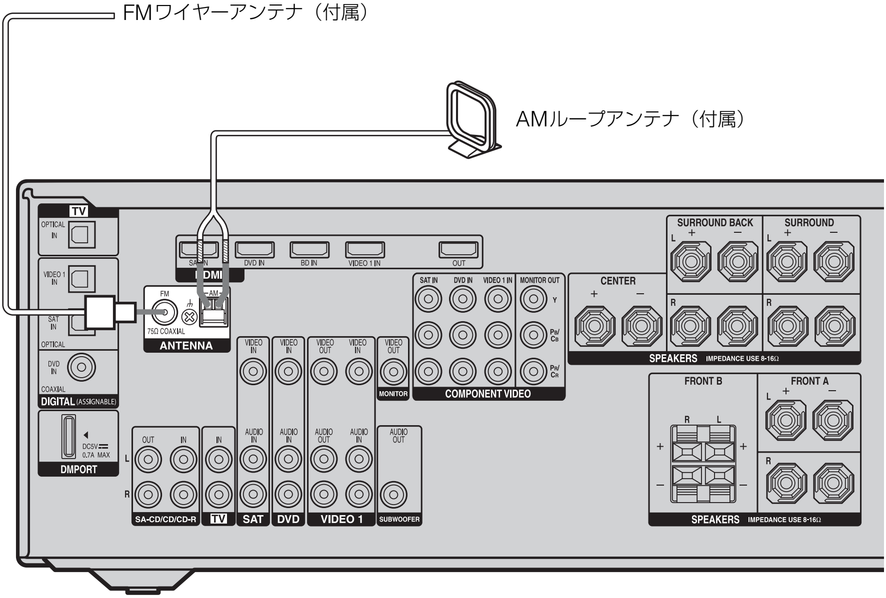
- DVDレコーダーを操作できるように、リモコンのVIDEO 1入力ボタンを工場出荷時の設定から変更してください。詳しくは、「お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する」（82ページ）をご覧ください。
- 表示窓に表示されるVIDEO 1入力の名前を変えることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（79ページ）をご覧ください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。




Ⓐ光（OPTICAL）デジタル接続コード（別売）
Ⓑ音声コード（別売）
Ⓒ映像コード（別売）
Ⓓコンポーネント映像コード（別売）
Ⓔ音声／映像コード（別売）

# 準備５：アンテナをつなぐ

ラジオを聞くために、付属のAMループアンテナおよびFMワイヤーアンテナをつなぎます。
アンテナをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



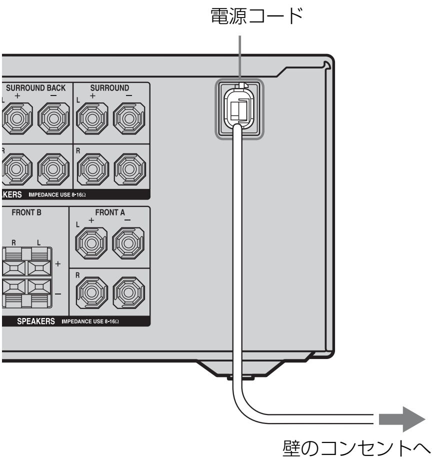

**ご注意**

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に置いてください。

# 準備6：本体とリモコンを準備する

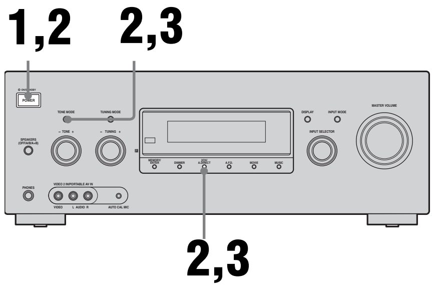
## 電源コードをつなぐ

電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。




## 本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。
本体のボタンを使って操作してください。




**1** POWERを押して、本機の電源を切る。

**2** TONE MODEと2CH/A.DIRECTを押しながら、POWERを押す。

**3** 表示窓に「CLEARING」と表示されたら、TONE MODEと2CH/A.DIRECTを離す。

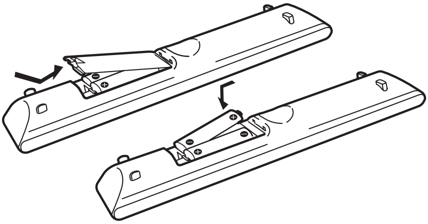
表示窓に「CLEARED」と表示されます。

初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

次のページへつづく

## リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに、単3乾電池（付属）2個を入れます。



### ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使用途中の乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と、種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや腐食を防ぐため、乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（82ページ）。

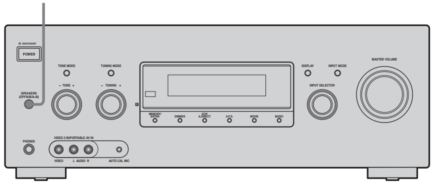
### ちょっと一言

乾電池の寿命は、通常約3ヶ月です。リモコンで本機を操作できなくなったら、新しい乾電池に交換してください。

# 準備7：フロントスピーカーを選ぶ

本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）ボタンで、使用するスピーカーシステムを選びます。
本体のボタンを使って操作してください。

SPEAKERS (OFF/A/B/A+B)



## SPEAKERS (OFF/A/B/A+B)をくり返し押して、使用するフロントスピーカーシステムを表示窓に表示する。

| 使うスピーカーシステム | 点灯 |
|---|---|
| FRONT SPEAKERS A端子につないだスピーカー | SP A |
| FRONT SPEAKERS B端子につないだスピーカー | SP B |
| FRONT SPEAKERS AとB端子につないだスピーカー（パラレル接続） | SP A+B |
| すべてのスピーカー端子から音声が出力されません。 | ALL OFFがしばらくの間点灯してから、スピーカー表示が消える。 |

### ご注意

ヘッドホンをつないでいるときは、SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）でフロントスピーカーを切り換えることはできません。

# 準備８：自動でスピーカーを設定する

## （自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、自動的に以下の項目を測定します。

- スピーカーの有無[a)]
- スピーカーのレベル
- スピーカーの距離[a)]
- スピーカーのサイズ[a)]
- スピーカーの極性
- 周波数特性[a)b)]

a) アナログダイレクト機能を選んでいる場合は、測定結果は反映されません。
b) 以下の場合は、測定結果は反映されません。
　— サンプリング周波数が176.4 kHz以上のDolby TrueHD信号を受信している。
　— サンプリング周波数が176.4 kHz以上のPCM信号を受信している。

D.C.A.C.機能によって、自動的に最適な音声バランスを設定します。
なお、手動でお好みのスピーカーのレベルとバランスを設定することもできます。詳しくは、「準備９：スピーカーのレベルとバランスを調節する」（39ページ）をご覧ください。

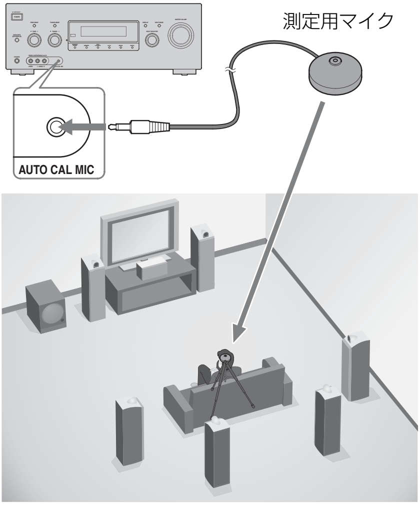
### 測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（18、19ページ）。
測定の前に、以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

**ご注意**

- 以下の場合は、自動音場補正機能は働きません。
  — SPEAKERS (OFF/A/B/A+B)でOFFを選んでいるとき
  — ヘッドホンをつないでいるとき
- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。




**1** 測定用のマイク（付属）を本機前面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。

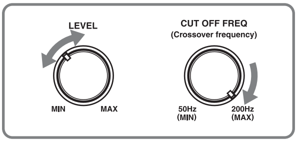
**2** マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

次のページへつづく

### アクティブサブウーファーの設定について

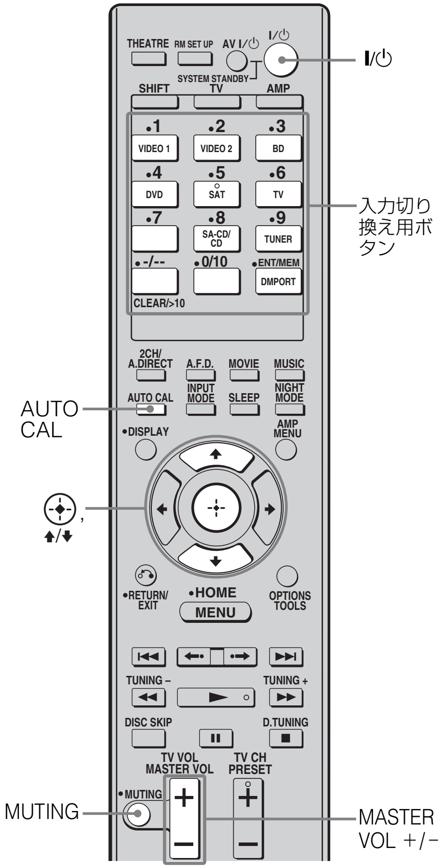
- サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、MASTER VOLUMEつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。




**ご注意**

お使いになるサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

## 測定する




## AUTO CALを押す。

5秒後に測定が始まります。表示窓に測定開始までの残り時間が表示されます。
測定時間は約30秒です。測定が始まると、以下の項目が表示されます。

| 測定項目 | 表示 |
|---|---|
| スピーカーの有無 | TONE |
| スピーカーのレベル、距離、周波数特性 | T.S.P. |
| サブウーファーのレベル、距離 | WOOFER |

**ちょっと一言**

- 測定中に有効な操作は電源のON/OFFの操作のみです。そのほかの操作は無効です。
- ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないことがあります。

### 測定を中止するには

測定中に以下の操作をすると、測定が中止されます。

ーI/⏻またはPOWERを押す。

ーリモコンの入力切り換え用ボタンを押す、または本体のINPUT SELECTORを回す。

ーボリュームを変更する。

ーMUTINGを押す。

ーSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）の設定を変える。

ーヘッドホンをつなぐ。

ーAUTO CALをもう一度押す。

## 測定結果を確認／保存する

### 1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

| 測定結果 | 表示 | 説明 |
|---|---|---|
| 正常に測定が終了したとき | SAVE EXIT | 手順2へ進んでください。 |
| 正常に測定できなかったとき | E-■■■:■■ | 「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（37ページ）をご覧ください。 |

### 2 AMPを押し、↑/↓をくり返し押して項目を選び、⊕を押す。

| 項目 | 説明 |
|---|---|
| EXIT | 測定した設定を保存しないで終了します。 |
| LEVEL INFO. | スピーカーのレベルの測定結果を表示します。 |
| DIST. INFO. | スピーカーの距離の測定結果を表示します。 |
| PHASE INFO. | 各スピーカーの位相（正相/逆相）を表示します。「「PHASE INFO.」を選んだときは」（36ページ）をご覧ください。 |
| WARN CHECK | 測定結果の注意事項を表示します。「「WARN CHECK」を選んだときは」（38ページ）をご覧ください。 |
| SAVE EXIT | 測定した設定を保存し、終了します。 |
| RETRY | 再測定します。 |

### 3 測定結果を保存する。

手順2で「SAVE EXIT」を選びます。

測定結果が保存され、AUTO CALメニューで自動音場補正タイプを選ぶことができるようになります。

詳しくは38ページをご覧ください。

測定が終了すると、「COMPLETE」が表示されます。測定結果にポジション番号が割り当てられて登録されます。

**ご注意**

自動音場測定結果のポジション番号を選ぶことができます。ポジション番号は自動音場測定を行う前に選んでください。詳しくは38ページをご覧ください。

ポジション番号を選ばない場合は、自動的にPOS.1（初期設定）になります。

**ちょっと一言**

スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。

測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、SPEAKERメニュー（48ページ）で設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

次のページへつづく

### 「PHASE INFO.」を選んだときは
各スピーカーの位相（正相、逆相）を確認できます。

## ↑/↓をくり返し押してスピーカーを選び、⊕を押して「測定結果を確認／保存する」の手順2に戻る。

| 表示 | 説明 |
| --- | --- |
| ■■■* - IN | 正相です。 |
| ■■■*- OUT | 逆相です。スピーカーの＋/－端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。 |

* ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。
F　フロントスピーカー
FL　フロントスピーカー（左）
FR　フロントスピーカー（右）
CNT　センタースピーカー
S　サラウンドスピーカー
SL　サラウンドスピーカー（左）
SR　サラウンドスピーカー（右）
SB　サラウンドバックスピーカー
SBL　サラウンドバックスピーカー（左）
SBR　サラウンドバックスピーカー（右）
SW　サブウーファー

**ちょっと一言**
サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

### 測定が終わったら
測定用のマイクを抜いてください。

**ご注意**
スピーカーの設置位置を変更したときは、測定をやり直してください。

## 自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧



| 表示 | 原因と対策 |
|---|---|
| E - ■■■* : 31 | SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）がOFFになっています。SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）を音がでる状態にして、再測定してください。 |
| E - ■■■* : 32 | どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用のマイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。接続されている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。 |
| E - ■■■* : 33 | • フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが1本しか接続されていません。<br>• 測定用マイクが接続されていません。<br>• 左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。<br>• サラウンドスピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーが接続されています。サラウンドスピーカーをSURROUND端子に接続してください。<br>• サラウンドバックスピーカーがSPEAKERS SURROUND BACK R端子にのみ接続されています。サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続するときは、SPEAKERS SURROUND BACK L端子に接続してください。 |
| W - ■■■* : 40 | 測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。<br>再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。 |
| W - ■■■* : 41 | 測定用マイクからの入力が過大です。<br>これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。 |
| W - ■■■* : 42 | 周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。 |
| W - ■■■* : 43 | サブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。 |
| NO WARNING | WARNING情報はありません。 |

* ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます（F、FL、FR、CNT、S、SL、SR、SB、SBL、SBR、SW）。

次のページへつづく

E-■■■: 31、32、33

**1** ⊕を押すと「RETRY? YES」が表示される。

**2** ↑/↓を押して「RETRY? YES」を選び、⊕を押す。

**3** 「測定結果を確認／保存する」の手順2からやり直す。

### 「WARN CHECK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

## ⊕を押して、「測定結果を確認／保存する」（35ページ）の手順1に戻る。

## A. CALメニューのパラメーターについて

AUTO CALメニューを使って、自動音場補正機能をお好みにあわせて設定したり、名前をつけたりすることができます。
メニューから「AUTO CAL」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）および「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### ■ A.CAL START（自動音場補正）

### ■ CAL TYPE（補正タイプ）*

- FULL FLAT
  各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- ENGINEER
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
- FRONT REF
  すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
- OFF
  自動音場補正のイコライザーをオフにします。

* 自動音場補正の設定が登録されている場合のみ、選択できます。

### ■ POSITION（リスニングポジション）

測定位置や視聴環境、測定条件ごとに、ポジション1、2、3として3つのパターンを登録することができます。

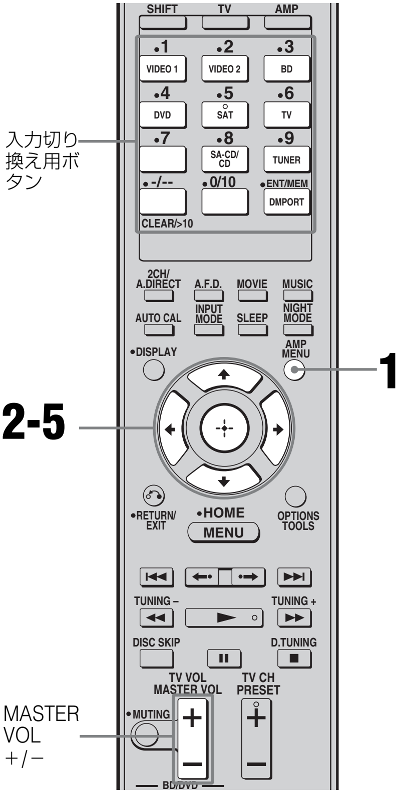
### ■ NAME IN（名前の入力）

測定番号をつけ直すことができます。詳しくは「入力に名前を付ける」（79ページ）をご覧ください。

# 準備９：スピーカーのレベルとバランスを調節する

## （TEST TONE）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。




**1** AMP MENUを押す。

**2** ↑/↓をくり返し押して「LEVEL」を選び、⊕または→を押す。

**3** ↑/↓をくり返し押して「TEST TONE」を選び、⊕を押す。

**4** ↑/↓をくり返し押して、テストトーンのタイプと調整したいスピーカーを選ぶ。

「FIX」または「AUTO」を選べます。
詳しくは「TEST TONE（テストトーン）」（47ページ）をご覧ください。

**ちょっと一言**

- すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンのMASTER VOL ＋/－または本体のMASTER VOLUMEつまみで調節します。
- スピーカーのレベルとバランスを調整している間は、調整した値が表示窓に表示されます。

**5** 手順1から4をくり返し、「OFF」を選ぶ。

入力切り換え用ボタンのどれかを押しても、テストトーンを止めることができます。

### テストトーンが何も聞こえないときは

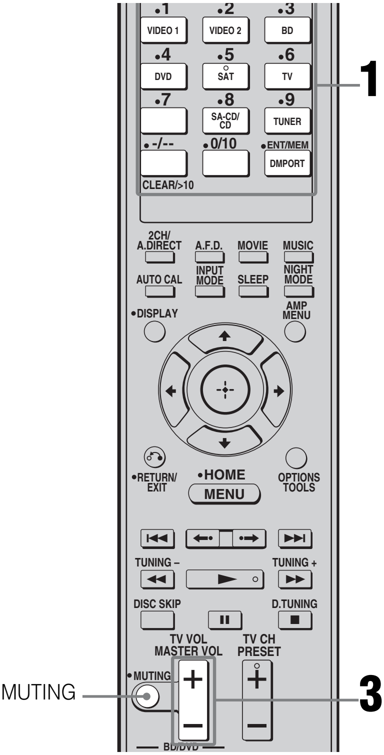
- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように、確実につないでください。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

### テストトーンが表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーから出るときは

接続したスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

再生する

# アンプの入力を選ぶ




## 1 入力切り換え用のボタンを押す。

本体のINPUT SELECTORを使って操作することもできます。
選んだ入力が表示窓に表示されます。

| 選んだ入力 [表示] | 再生する機器 |
|---|---|
| VIDEO 1 [VIDEO 1] | VIDEO 1端子につないだビデオデッキなど |
| VIDEO 2 [VIDEO 2] | VIDEO 2/PORTABLE AV IN端子につないだビデオカメラ、テレビゲームなど |
| BD [BD] | BD端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど |
| DVD [DVD] | DVD端子につないだDVDプレーヤーなど |
| SAT [SAT] | SAT端子につないだ衛星放送チューナーやセットトップボックスなど |
| TV [TV] | TV端子につないだテレビなど |
| SA-CD/CD [SA-CD/CD/CD-R]* | SA-CD/CD/CD-R端子につないだスーパーオーディオCD、CDプレーヤーなど |
| TUNER [FMTUNER またはAM TUNER] | 内蔵ラジオチューナー |
| DMPORT [DMPORT] | DMPORT端子につないだデジタルメディアポートアダプター |

* 表示窓には、「SA-CD/CD/CD-R」がいったんスクロールしてから「SA-CD/CD」が表示されます。

## 2 本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。

## 3 MASTER VOL +/−を押して、音量を調節する。

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。

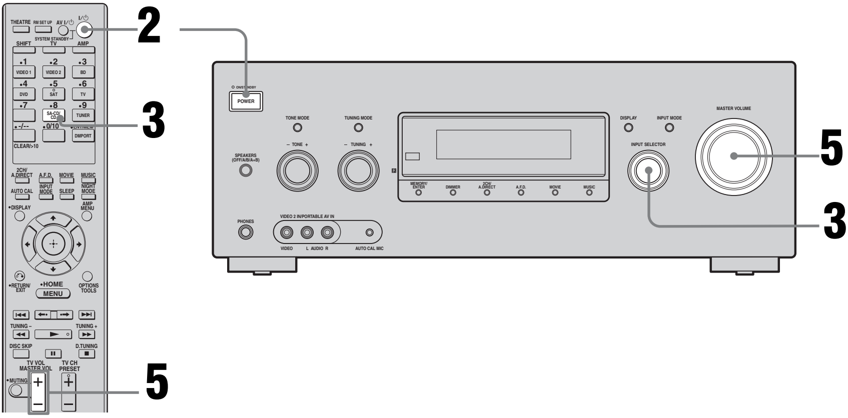
### 音を一時的に消すには

リモコンのMUTING を押します。解除するには、MUTING をもう一度押します。またはボリュームを調節して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

### スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

# スーパーオーディオCD/CDを聞く




**ご注意**

- 本ページの操作はソニーのスーパーオーディオCDプレーヤーの場合です。
- スーパーオーディオCDプレーヤー、CDプレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

**ちょっと一言**

- お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます。詳しくは58ページをお読みください。
  おすすめの音場プログラム：
  クラシック：HALL
  ジャズ：JAZZ
  ライブコンサート：CONCERT
- 2chで記録された音声を全てのスピーカーから出力して聞くことができます（マルチチャンネル）。詳しくは、56ページをご覧ください。

**1** スーパーオーディオCDプレーヤー/CDプレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。

**2** アンプ（本機）の電源を入れる。

**3** SA-CD/CDを押す。

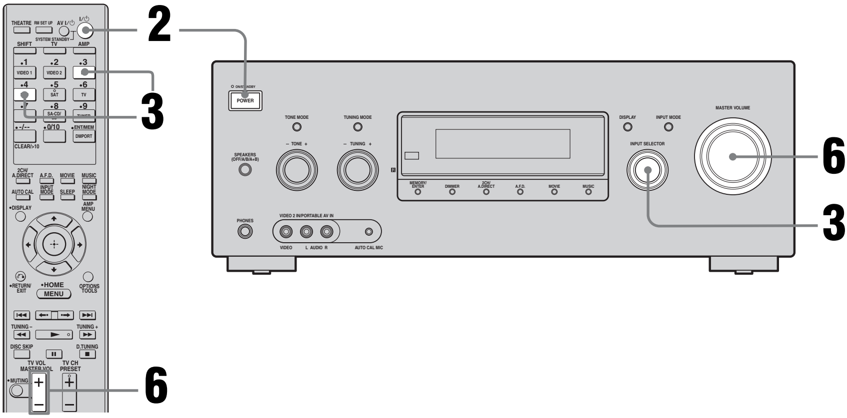
または本体のINPUT SELECTORを使って、「SA-CD/CD/CD-R」を選びます。

**4** ディスクを再生する。

**5** ボリュームを適当な音量に調節する。

**6** 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

# ＤＶＤ／ブルーレイディスクを見る




**ご注意**

- テレビ、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- マルチチャンネルで音声が聞けない場合は、以下についてご確認ください。
  - ー 本機とDVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダーがデジタル接続されているか。
  - ー DVDプレーヤー /ブルーレイディスクレコーダー側の音声デジタル出力が設定されているか。

**ちょっと一言**

- 必要に応じて再生するディスクのサウンドフォーマットを選んでください。
- お聞きになる音楽に合わせて、お好みの音場効果を設定できます。詳しくは、58ページをお読みください。
  おすすめの音場プログラム：
  映画：C.ST.EX
  音楽：CONCERT

**1** テレビ、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの電源を入れる。

**2** アンプ（本機）の電源を入れる。

**3** DVDを見るときはDVDを押す。ブルーレイディスクを見るときはBDを押す。

または本体のINPUT SELECTORを使って、「DVD」か「BD」を選びます。

**4** テレビの入力をDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの映像が映るように切り換える。

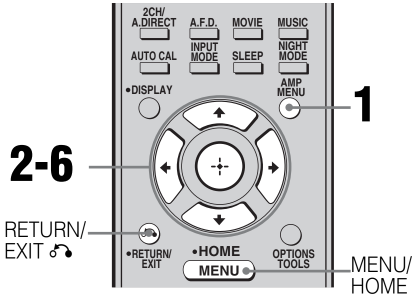
**5** ディスクをセットし、再生する。

**6** ボリュームを適当な音量に調節する。

**7** 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

# メニューを使ってアンプを設定する

メニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。




**1** AMP MENUを押す。

**2** ↑/↓をくり返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

**3** ⊕または→を押して、メニューを表示する。

**4** ↑/↓をくり返し押して、設定したい項目を選ぶ。

**5** ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

**6** ↑/↓をくり返し押して、設定を選ぶ。

自動的に設定が確定されます。

### 前の表示に戻るには

←またはRETURN/EXT を押します。

### メニューから抜けるには

MENU/HOMEまたはAMP MENUを押します。

### ご注意

表示窓の設定項目が暗く表示されているものは、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

次のページへつづく

## メニュー一覧

各メニューから以下の項目が設定できます。メニュー操作について詳しくは、43ページをご覧ください。

| メニュー<br>[表示] | 項目<br>[表示] | 設定値 | 初期値 |
|---|---|---|---|
| AUTO CAL<br>[AUTO CAL]<br>（38ページ） | 自動音場補正<br>[A.CAL START] | | |
| | 補正のタイプ[a]<br>[CAL TYPE] | FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、OFF | FULL FLAT |
| | リスニングポジション[a]<br>[POSITION] | POS. 1、POS. 2、POS. 3 | POS. 1 |
| | 名前の入力[a]<br>[NAME IN] | 詳しくは「入力に名前を付ける」（79ページ）をお読みください。 | |
| LEVEL<br>[LEVEL]<br>（47ページ） | テストトーン[a]<br>[TEST TONE] | OFF、FIX ■■■[b]、AUTO ■■■[b] | OFF |
| | フェーズノイズ[a]<br>[P. NOISE] | OFF、FL/SR、SL/FL、SBL/SL、SBR/SBL、SR/SBR、SR/SL、FR/SR、FR/SL、CNT/FR、FL/CNT | OFF |
| | フェーズオーディオ[a]<br>[P. AUDIO] | OFF、FL/SR、SL/FL、SBL/SL、SBR/SBL、SR/SBR、SR/SL、FR/SR、FR/SL、CNT/FR、FL/CNT | OFF |
| | フロントスピーカー（左）レベル<br>[FL LEVEL] | FL －10dB ～ FL +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | フロントスピーカー（右）レベル<br>[FR LEVEL] | FR －10dB ～ FR +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | センタースピーカーレベル[c]<br>[CNT LEVEL] | CNT －20dB ～ CNT +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | サラウンドスピーカー（左）レベル[c]<br>[SL LEVEL] | SL －20dB ～ SL +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | サラウンドスピーカー（右）レベル[c]<br>[SR LEVEL] | SR －20dB ～ SR +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | サラウンドバックスピーカーレベル[c]<br>[SB LEVEL] | SB －20dB ～ SB +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | サラウンドバックスピーカー（左）レベル[c]<br>[SBL LEVEL] | SBL －20dB ～ SBL +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | サラウンドバックスピーカー（右）レベル[c]<br>[SBR LEVEL] | SBR －20dB ～ SBR +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | サブウーファーレベル[c]<br>[SW LEVEL] | SW －20dB ～ SW +10dB（0.5dB単位） | 0dB |
| | ダイナミックレンジの圧縮[a]<br>[D. RANGE] | COMP. MAX、COMP. STD、COMP. AUTO、COMP. OFF | COMP. AUTO |

| メニュー [表示] | 項目 [表示] | 設定値 | 初期値 |
|---|---|---|---|
| SPEAKER [SPEAKER] (48ページ) | スピーカーパターン[a)] [SP PATTERN] | 3/4.1、3/4、3/3.1、3/3、2/4.1、2/4、3/2.1、3/2、2/3.1、2/3、2/2.1、2/2、3/0.1、3/0、2/0.1、2/0 | 3/4.1 |
| | フロントスピーカー[a)] [FRT SP] | LARGE、SMALL | LARGE |
| | センタースピーカー[a) c)] [CNT SP] | LARGE、SMALL | LARGE |
| | サラウンドスピーカー[a) c)] [SUR SP] | LARGE、SMALL | LARGE |
| | フロントスピーカー（左）までの距離[a)] [FL DIST.] | FL 1.00m ～ FL 10.00m（0.01m単位） | FL 3.00 m |
| | フロントスピーカー（右）までの距離[a)] [FR DIST.] | FR 1.00m ～ FR 10.00m（0.01m単位） | FR 3.00 m |
| | センタースピーカーまでの距離[a) c)] [CNT DIST.] | CNT 1.00m ～ CNT 10.00m（0.01m単位） | CNT 3.00 m |
| | サラウンドスピーカー（左）までの距離[a) c)] [SL DIST.] | SL 1.00m ～ SL 10.00m（0.01m単位） | SL 3.00 m |
| | サラウンドスピーカー（右）までの距離[a) c)] [SR DIST.] | SR 1.00m ～ SR 10.00m（0.01m単位） | SR 3.00 m |
| | サラウンドバックスピーカーまでの距離[a) c)] [SB DIST.] | SB 1.00m ～ SB 10.00m（0.01m単位） | SB 3.00 m |
| | サラウンドバックスピーカー（左）までの距離[a) c)] [SBL DIST.] | SBL 1.00m ～ SBL 10.00m（0.01m単位） | SBL 3.00 m |
| | サラウンドバックスピーカー（右）までの距離[a) c)] [SBR DIST.] | SBR 1.00m ～ SBR 10.00m（0.01m単位） | SBR 3.00 m |
| | サブウーファーまでの距離[a) c)] [SW DIST.] | SW 1.00m ～ SW 10.00m（0.01m単位） | SW 3.00 m |
| | 距離の単位[a)] [DIST. UNIT] | FEET、METER | METER |
| | フロントスピーカーのクロスオーバー周波数[a) c)] [FRT CROSS] | CROSS 40Hz ～ CROSS 200Hz（10Hz単位） | CROSS 120Hz |
| | センタースピーカーのクロスオーバー周波数[a) c)] [CNT CROSS] | CROSS 40Hz ～ CROSS 200Hz（10Hz単位） | CROSS 120Hz |
| | サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数[a) c)] [SUR CROSS] | CROSS 40Hz ～ CROSS 200Hz（10Hz単位） | CROSS 120Hz |



次のページへつづく

| メニュー [表示] | 項目 [表示] | 設定値 | 初期値 |
|---|---|---|---|
| SURROUND [SURROUND] (51ページ) | サウンドフィールドの種類の選択 [S.F. SELECT] | 詳しくは「あらかじめ設定されているサウンドフィールド(サラウンド効果)を楽しむ」(55ページ)をお読みください。 | |
| | エンハンスドサラウンドモード [E.SUR MODE] | PLII[d]、PLIIx[d]、NEO6 CIN、NEO6 MUS、NEURAL-THX | PLIIx |
| | エフェクトレベル[a] [EFFECT] | EFCT. 50%、EFCT. 80%、EFCT. 100%、EFCT. 150% | EFCT. 100% |
| EQ [EQ] (51ページ) | フロントスピーカーの低域レベル [BASS] | BASS －10dB 〜 BASS +10dB(1dB単位) | BASS 0dB |
| | フロントスピーカーの高域レベル [TREBLE] | TREBLE －10dB 〜 TREBLE +10dB(1dB単位) | TREBLE 0dB |
| TUNER [TUNER] (52ページ) | FM放送局の受信モード[a] [FM MODE] | STEREO、MONO | STEREO |
| | 登録した放送局に名前を付ける[a] [NAME IN] | 詳しくは「登録した放送局に名前を付ける」(66ページ)をお読みください。 | |
| AUDIO [AUDIO] (52ページ) | 音声と映像出力の同期[a] [A/V SYNC] | 0ms 〜 300ms(10ms単位) | 0ms |
| | 二重音声モード[a] [DUAL MONO] | MAIN/SUB、MAIN、SUB | MAIN |
| | デジタル音声入力デコードプライオリティ[a] [DEC. PRIO.] | DEC. AUTO、DEC. PCM | DEC. AUTO |
| | デジタル音声入力の割り当て[a] [D. ASSIGN] | 詳しくは、「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」(76ページ)をご覧ください。 | |
| HDMI [HDMI] (53ページ) | HDMI機器制御機能の設定[a] [CTRL: HDMI] | CTRL ON、CTRL OFF | CTRL OFF |
| | HDMI音声出力の設定[a] [AUDIO OUT] | AMP、TV+AMP | AMP |
| | HDMIのサブウーファーレベル[a][e] [SW LEVEL] | SW AUTO、SW 0dB、SW +10dB | SW AUTO |
| | HDMIのサブウーファーローパスフィルタ[a][e] [SW LPF] | L.P.F. OFF、L.P.F. ON | L.P.F. OFF |
| | サウンドフィールド設定[a][e] 「SOUND.FIELD] | AUTO、MANUAL | MANUAL |
| SYSTEM [SYSTEM] (54ページ) | 名前を付ける [NAME IN] | 詳しくは「入力に名前を付ける」(79ページ)をお読みください。 | |
| | 表示窓の明るさ[a] [DIMMER] | 100% DOWN、60% DOWN、0% DOWN | 0% DOWN |

a) 詳しくは、カッコ内のページをご覧ください。
b) ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます(FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、SW)。
c) スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。
d) スピーカーパターンによっては、表示されない設定があります。
e) この項目はHDMI入力信号を検出したときのみ、表示されます。

# 各スピーカーのレベルやバランスを調節する

## （LEVELメニュー）

LEVELメニューを使って、各スピーカーのレベルやバランスを調整できます。これらの設定はすべてのサウンドフィールドについて有効です。
設定メニューから「LEVEL」を選んでください。各パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### LEVELメニューの設定項目

#### ■ TEST TONE（テストトーン）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節できます。

- OFF
  テストトーンが止まります。
- FIX ■■■*
  テストトーンを出すスピーカーを選ぶことができます。
- AUTO ■■■*
  テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。

* ■■■部分には、スピーカーチャンネルが表示されます。

#### ■ P. NOISE（Phase Noise）

- OFF
  テストトーンが止まります。
- FL/SR、SL/FL、SBL/SL、SBR/SBL、SR/SBR、SR/SL、FR/SR、FR/SL、CNT/FR、FL/CNT
  隣り合った2つのスピーカーから順番に、テストトーンを出します。スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

#### ■ P. AUDIO（Phase Audio）

- OFF
  テストトーンが止まります。
- FL/SR、SL/FL、SBL/SL、SBR/SBL、SR/SBR、SR/SL、FR/SR、FR/SL、CNT/FR、FL/CNT
  隣り合った2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出します。スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

#### ■ FL LEVEL（フロントスピーカー（左）レベル）

#### ■ FR LEVEL（フロントスピーカー（右）レベル）

#### ■ CNT LEVEL（センタースピーカーレベル）

#### ■ SL LEVEL（サラウンドスピーカー（左）レベル）

#### ■ SR LEVEL（サラウンドスピーカー（右）レベル）

#### ■ SB LEVEL（サラウンドバックスピーカーレベル）

#### ■ SBL LEVEL（サラウンドバックスピーカー（左）レベル）

#### ■ SBR LEVEL（サラウンドバックスピーカー（右）レベル）

#### ■ SW LEVEL（サブウーファーレベル）

**ご注意**

スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

#### ■ D. RANGE（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

次のページへつづく

- COMP. MAX
  ダイナミックレンジを極端に狭くします。
- COMP. STD
  レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
- COMP. AUTO
  ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- COMP. OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

**ちょっと一言**

「D. RANGE（ダイナミックレンジの圧縮）」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
「COMP. STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「COMP. MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

# スピーカーを設定する

## （SPEAKERメニュー）

SPEAKERメニューを使って、本機に接続している各スピーカーのサイズと距離を設定できます。
設定メニューから「SPEAKER」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### SPEAKERメニューの設定項目

#### ■ SP PATTERN（スピーカーパターン）

接続しているスピーカーの数を設定します。サブウーファー、フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの設定に合わせます。詳しくは、「スピーカーパターンを設定する」（20ページ）をお読みください。

#### ■ FRT SP（フロントスピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。サブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたフロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーに回されて再生されます。ただし、フロントスピーカーの設定を「SMALL」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーも自動的に「SMALL」に設定されます。

## ■ CNT SP（センタースピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。ただし、フロントスピーカーが「SMALL」になっていると、センタースピーカーを「LARGE」に設定できません。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたセンタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーに回されて再生されます。

## ■ SUR SP（サラウンドスピーカー）

サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。ただし、フロントスピーカーが「SMALL」になっていると、サラウンドスピーカーを「LARGE」に設定できません。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。カットされたサラウンドスピーカーの低域成分は、「LARGE」に設定した他のスピーカーまたはサブウーファーに回されて再生されます。

### ちょっと一言

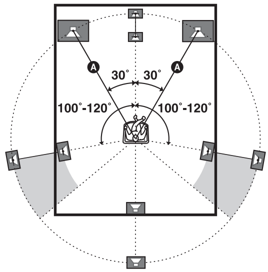
各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。
しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については51ページをご覧ください。

## ■ FL DIST.（フロントスピーカー（左）までの距離）

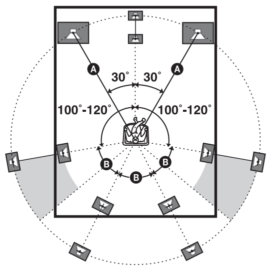
## ■ FR DIST.（フロントスピーカー（右）までの距離）

リスニングポジションからフロントスピーカー（Ⓐ）までの距離を設定します。左右のフロントスピーカーまでの距離が同じでない場合は、近いほうのスピーカーまでの距離を設定します。

### サラウンドバックスピーカーが1台の場合




### サラウンドバックスピーカーが2台の場合（角度（Ⓑ）は同じにする）




## ■ CNT DIST.（センタースピーカーまでの距離）

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。

## ■ SL DIST.（サラウンドスピーカー（左）までの距離）

次のページへつづく

## ■ SR DIST.（サラウンドスピーカー（右）までの距離）

リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

## ■ SB DIST.（サラウンドバックスピーカーまでの距離）

## ■ SBL DIST.（サラウンドバックスピーカー（左）までの距離）

## ■ SBR DIST.（サラウンドバックスピーカー（右）までの距離）

リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。

## ■ SW DIST.（サブウーファーまでの距離）

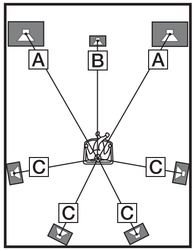
リスニングポジションからサブウーファーまでの距離を設定します。

**ご注意**

スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

**ちょっと一言**

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離Bは、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離Aよりも1.5mより近くに設定できません。以下の図のA－Bが1.5m以下になるように設置してください。
例：Aが6mのとき、Bの距離は4.5m以上にしてください。
リスニングポジションからサラウンドスピーカー／サラウンドバックスピーカーまでの距離Cは、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離Aよりも4.5mより近くに設定できません。以下の図のA－Cが4.5m以下になるように設置してください。
例：Aが6mのとき、Cの距離は1.5m以上にしてください。
これらは、スピーカーの配置を適切に行い、よりよい音で楽しんでいただくために設けた制限です。使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。
この設定は実際に音を聞きながら行うと、よりよい結果が得られますので、お試しください。




## ■ DIST. UNIT（距離の単位）

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

- FEET
  フィート表示に切り換えます。
- METER
  メートル表示に切り換えます。

## ■ FRT CROSS（フロントスピーカーのクロスオーバー周波数）

SPEAKERメニューで「SMALL」に設定されているフロントスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

## ■ CNT CROSS（センタースピーカーのクロスオーバー周波数）

SPEAKERメニューで「SMALL」に設定されているセンタースピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

## ■ SUR CROSS（サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数）

SPEAKERメニューで「SMALL」に設定されているサラウンドスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。

# サラウンド効果を調節する

## （SURROUNDメニュー）

SURROUNDメニューを使って、お好みのサウンドフィールドを選び、サラウンド効果を楽しむことができます。
設定メニューから「SURROUND」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### SURROUNDメニューの設定項目

#### ■ S. F. SELECT（サウンドフィールドの種類の選択）

お好みのサウンドフィールドを選ぶことができます。詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」（55ページ）をご覧ください。

**ご注意**

本機では、各入力で最後に選んだサウンドフィールドが次回も適用されます（サウンドフィールドリンク）。例えば、DVD入力に対して「HALL」を選び、その後、入力を切り換えて、もう一度DVD入力に戻っても、「HALL」が適用されます。

#### ■ E.SUR MODE（エンハンスドサラウンドモード）

お好みのサラウンドモードを選ぶことができます。詳しくは、「ドルビーデジタルやDTSのサラウンド効果を楽しむ」（56ページ）をご覧ください。

#### ■ EFFECT（エフェクトレベル）

サウンドフィールドのシネマスタジオ EX A/B/Cを選んだときの、サラウンド効果のレベルを選ぶことができます。

# イコライザー（低域/高域のレベル）を調節する

## （EQメニュー）

EQメニューを使って、フロントスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。
設定メニューから「EQ」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### EQメニューの設定項目

#### ■ BASS（フロントスピーカーの低域レベル）*

#### ■ TREBLE（フロントスピーカーの高域レベル）*

* スピーカーの低域レベルと高域レベルは、本体のTONE MODE、TONE + / −つまみでも調節できます（7 ページ）。

**ご注意**

イコライザー機能は以下の場合、機能しません。
ーサンプリング周波数が176.4 kHz以上のDolby TrueHD信号を受信している。
ーサンプリング周波数が176.4 kHz以上のPCM信号を受信している。

# ラジオを設定する

## （TUNERメニュー）

TUNERメニューを使って、FM放送局の受信モードを設定できます。また、登録した放送局に名前を付けることもできます。
設定メニューから「TUNER」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### TUNERメニューの設定項目

#### ■ FM MODE（FM放送局の受信モード）

- STEREO
  ステレオで放送されたラジオ放送をステレオとして受信します。
- MONO
  放送信号に関わらず、モノラルとして受信します。

#### ■ NAME IN（登録した放送局に名前を付ける）

登録した放送局に名前を付けます。詳しくは、「登録した放送局に名前を付ける」（66ページ）をご覧ください。

# 音声を設定する

## （AUDIOメニュー）

AUDIOメニューを使って、お好みに合わせて音声を設定できます。
設定メニューから「AUDIO」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### AUDIOメニューの設定項目

#### ■ A/V SYNC（音声と映像出力の同期）

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。0ミリ秒から300ミリ秒まで、10ミリ秒単位で調節できます。

**ご注意**

- A/V SYNC機能は、大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- A/V SYNC機能は、アナログダイレクトには機能しません。

#### ■ DUAL MONO（二重音声モード）

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

- MAIN/SUB（主音声/副音声）
  フロントスピーカー左から主音声、フロントスピーカー右から副音声を同時に再生します。
- MAIN（主音声）
  主音声のみを再生します。
- SUB（副音声）
  副音声のみを再生します。

#### ■ DEC. PRIO.（デジタル音声入力デコードプライオリティ）

HDMI IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

- DEC. AUTO
  ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2

AAC、PCMの音声入力を自動的に判別し、再生します。

- DEC. PCM
  HDMI IN端子からの信号を選ぶと、HDMI IN端子に接続している機器の音声出力が常時PCM信号になります（頭切れを防ぎます）。その他のフォーマット信号を再生したいときは、「DEC.AUTO」に設定してください。

**ご注意**

Decode Priorityを「PCM」に設定した場合でも、再生するディスクの信号によっては頭切れすることがあります。

### ■ D. ASSIGN（デジタル音声入力の割り当て）

特定の入力のデジタル音声入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる」（76ページ）をご覧ください。

# HDMIを設定する

## （HDMIメニュー）

HDMIメニューを使って、HDMI端子につないだ機器の操作ができます。設定メニューから「HDMI」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### HDMIメニューの設定項目

### ■ CTRL: HDMI（HDMI機器制御機能の設定）

HDMI機器制御機能を有効にします。詳しくは、「"ブラビアリンク"機能を使う」（68ページ）をご覧ください。

### ■ AUDIO OUT（HDMI音声出力の設定）

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

- AMP
  再生機の音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声はそのまま再生可能です。

  **ご注意**

  テレビのスピーカーから音は出ません。

- TV+AMP
  再生機の音声を本機と、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生します。

  **ご注意**

  - 本機で再生する音声は、チャンネル数やサンプリング周波数など、テレビの性能に依存します。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
  - 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ないことがあります。その場合は、「AMP」に設定してください。

次のページへつづく

### ■ SW LEVEL（サブウーファーレベルの設定）

HDMI接続を通してマルチチャンネルPCM信号が入力されているときにサブウーファーのレベルを0 dB～+10 dBの範囲で調節できます。HDMI入力ごとにレベルの設定ができます。

- SW AUTO
  入力ソースのサンプリング周波数によって自動的に+10 dBか0 dBに設定します。
- SW 0 dB
- SW +10 dB

**ご注意**

- この項目は、HDMI入力信号が検出されているときにのみ表示されます。
- 「SW LEVEL」が「SW AUTO」のとき、入力信号のサンプリング周波数が44.1 kHzとその整数倍の場合は「0 dB」、48 kHz とその整数倍の場合は「+10 dB」となります。

### ■ SW LPF（サブウーファーローパスフィルタの設定）

HDMI接続でPCM信号が入力されているときに、サブウーファー出力のローパスフィルタを設定します。お手持ちのサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルタがない場合に設定してください。

- L.P.F. OFF
  ローパスフィルタは機能しません。
- L.P.F. ON
  常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルタが働きます。

### ■ SOUND.FIELD（自動サウンドフィールド設定）

デジタルテレビ放送の番組を視聴するときに、オートジャンルセレクター機能を使うかを設定します。詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える」（72ページ）をご覧ください。

# システムを設定する

## （SYSTEMメニュー）

SYSTEMメニューを使って、スピーカーの距離などを設定できます。
設定メニューから「SYSTEM」を選んでください。パラメーターの調節について詳しくは、「メニューを使ってアンプを設定する」（43ページ）、「メニュー一覧」（44ページ）をご覧ください。

### SYSTEMメニューの設定項目

### ■ NAME IN（入力に名前を付ける）

入力に名前を付けて、表示できます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（79ページ）をご覧ください。

### ■ DIMMER（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを3段階で調節できます。

# あらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を楽しむ

## ブルーレイディスクレコーダーやその他の次世代ハードディスクプレーヤーを接続するときは

本機は以下のフォーマットに対応しています。

| 音声フォーマット | 最大チャンネル | 本機と再生機の接続 | |
|---|---|---|---|
| | | COAXIAL/OPTICAL | HDMI |
| Dolby Digital | 5.1チャンネル | ○ | ○ |
| Dolby Digital EX | 6.1チャンネル | ○ | ○ |
| Dolby Digital Plus [a] | 7.1チャンネル | × | ○ |
| Dolby TrueHD [a] | 7.1チャンネル | × | ○ |
| DTS | 5.1チャンネル | ○ | ○ |
| DTS-ES | 6.1チャンネル | ○ | ○ |
| DTS 96/24 | 5.1チャンネル | ○ | ○ |
| DTS-HD High Resolution Audio [a] | 7.1チャンネル | × | ○ |
| DTS-HD Master Audio [a][b] | 7.1チャンネル | × | ○ |
| MPEG-2 AAC（LC） | 5.1チャンネル | ○ | ○ |
| マルチチャンネルリニアPCM [a] | 7.1チャンネル | × | ○ |

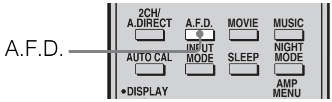
a) 再生機器が上記のフォーマットには対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
b) サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の信号は 96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。



次のページへつづく

## ドルビーデジタルやDTS のサラウンド効果を楽しむ

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコード処理モードを選ぶことができます。




### A.F.D.をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

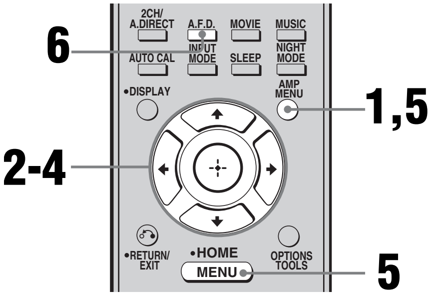
詳しくは、「A.F.D.モードの種類」（56ページ）をご覧ください。

### A.F.D.モードの種類

| **A.F.D.モード [表示]** | **デコード後のマルチチャンネル音声** | **効果** |
|---|---|---|
| A.F.D. AUTO [A.F.D. AUTO] | （自動判別） | このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。 |
| エンハンスドサラウンドモード [E. SURROUND] | （モードにより異なります） | 詳しくは、「エンハンスドサラウンドモードを選ぶ」（57ページ）をご覧ください。 |
| MULTI STEREO [MULTI ST.] | （マルチステレオ） | 2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては出力しないことがあります。 |

## エンハンスドサラウンドモードを選ぶ

エンハンスドサラウンドモードを使って、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコード処理モードを選ぶことができます。




**1** AMP MENUを押す。

**2** ↑/↓をくり返し押して、「SURROUND」を選び、⊕または→を押す。

**3** ↑/↓をくり返し押して、「E.SUR MODE」を選び、⊕または→を押す。

**4** ↑/↓をくり返し押して、設定したいモードを選び、⊕または→を押す。

**5** MENU/HOMEまたはAMP MENUを押して、メニューを消す。

**6** A.F.Dをくり返し押して、「E.SURROUND」を選ぶ。

「E.SUR MODE」メニューで選んだエンハンスドサラウンドモードが適用されます。

### エンハンスドサラウンドモードの種類

| エンハンスドサラウンドモード [表示] | デコード後のマルチチャンネル音声 | 効果 |
|---|---|---|
| Pro Logic II* [PLII] | 5チャンネル | ドルビープロロジックII処理を行います。 |
| Pro Logic IIx* [PLIIx] | 7チャンネル | ドルビープロロジックIIx処理を行います。 |
| Neo:6 Cinema [NEO6 CIN] | 7チャンネル | DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。 |
| Neo:6 Music [NEO6 MUS] | 7チャンネル | DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。 |
| Neural-THX [NEURAL-THX] | 7チャンネル | 次世代のNeural-THX®サラウンドです。ステレオ処理や純粋な5.1チャンネル処理に加え、Neural-THX®サラウンド処理された映画や音楽の360度、7.1チャンネルのサラウンド再生が可能です。 |

* スピーカーパターンの設定により、表示されないモードもあります。



次のページへつづく

### サブウーファーを接続したときは

サブウーファーから出力される低域効果音であるLFE信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「A.F.D. AUTO」、「NEO6 CIN」、「NEO6 MUS」では生成されません。

**ご注意**

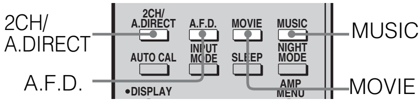
- 以下の条件の場合、サラウンドモードは機能しません。
  - サンプリング周波数が176.4 kHz以上のPCM信号を受信している。
  - DTS 96/24信号を受信している。
  - サンプリング周波数が88.2 kHz以上のDTS-HD信号を受信している。
  - サンプリング周波数が88.2 kHz以上のDolby TrueHD信号を受信している。
- Neural-THX は、サンプリング周波数が48 kHz以下の2チャンネル信号、または2チャンネルアナログ信号が入力されたときのみ働きます。
- サラウンドモードをNeural-THXに切り替えるときは、切り替えが完了するまでに時間がかかることがあります。
- Neural-THX処理を入切すると、出だしの音が切れることがあります。

**ちょっと一言**

- DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
- マルチチャンネル信号が入力されているときは、ドルビープロロジックIIxデコーディングは有効です。

## ソニーのサラウンド効果（DCS）を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。




### MOVIEをくり返し押して、映画用のサウンドフィールドを選ぶ。または、MUSICをくり返し押して、音楽用のサウンドフィールドを選ぶ。

詳しくは、「サウンドフィールドの種類」（59ページ）をご覧ください。

### サウンドフィールドの種類

| 種類 | サウンドフィールド<br>[表示] | 効果 |
|---|---|---|
| 映画用 | Cinema Studio EX A<br>DCS [C.ST.EX A] | ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。 |
| | Cinema Studio EX B<br>DCS [C.ST.EX B] | ソニー・ピクチャーズエンタテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。 |
| | Cinema Studio EX C<br>DCS [C.ST.EX C] | ソニー・ピクチャーズエンタテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。 |
| | V.Multi Dimension<br>DCS [V.MULTI DIM.] | 1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。 |
| 音楽用 | コンサートホール<br>[HALL] | 長方形のコンサートホールの音響特性を再現します。 |
| | ジャズクラブ<br>[JAZZ] | ジャズクラブの音響を再現します。 |
| | ライブハウス<br>[CONCERT] | 300席あるライブハウスの音響を再現します。 |
| | スタジアム<br>[STADIUM] | 屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。 |
| | スポーツ<br>[SPORTS] | スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。 |
| | ポータブルオーディオ<br>[PORTABLE] | ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。 |
| ヘッドホン使用時* | ヘッドホン2チャンネル<br>[HP 2CH] | 2ch Stereoモード（61ページ）、またはA.F.D.モード（56ページ）でヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。2チャンネル（ステレオ）で音を出します。デジタル入力のマルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。ただし、LFE信号は再生されません。 |
| | Headphone Theater<br>DCS [HP THEA] | 映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。映画館にいるような雰囲気をヘッドホンで再現します。 |
| | ヘッドホンダイレクト<br>[HP DIR] | 音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。 |

* ヘッドホンを使用したときに選べるサウンドフィールドです。



次のページへつづく

**ご注意**

- 映画用と音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  - サンプリング周波数が88.2 kHz以上のPCM信号を受信している。
  - DTS 96/24信号を受信している。
  - サンプリング周波数が88.2 kHz以上のDTS-HD信号を受信している。
  - サンプリング周波数が88.2 kHz以上のDolby TrueHD信号を受信している。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。
- 音楽用サウンドフィールドを選んでいるときは、SPEKAERメニューですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号にLFE信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、「PORTABLE」を選んでいるときは、サブウーファーから音が出ます。

**ちょっと一言**

DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS技術を利用しています。DCSについて詳しくは、「用語集」（87ページ）をご覧ください。

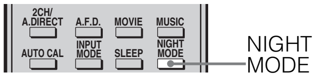
### 映画用/音楽用のサウンドフィールドを解除するには

2CH/A.DIRECTを押して、「2CH ST.」を選びます。または、A.F.D.をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」を選びます。

# 小音量でサラウンド効果を楽しむ

## （NIGHT MODE）

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。




## NIGHT MODEを押す。

NIGHT MODE機能が働きます。
NIGHT MODEを押すたびに、オンとオフが切り換わります。

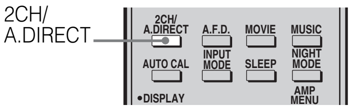
**ご注意**

NIGHT MODEは、以下の場合は機能しません。
ーサンプリング周波数が176.4 kHz以上のDolby TrueHD信号を受信している。
ーサンプリング周波数が176.4 kHz以上のPCM信号を受信している。

# 音声を2チャンネルで聞く

## （2CH STEREO）

フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。サブウーファーからは音が出ません。
標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。LFE信号は再生されません。

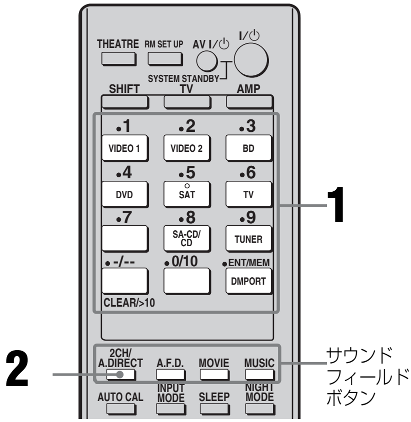



### 2CH/A.DIRECTをくり返し押して、「2CH ST」を選ぶ。

# 高音質のアナログで聞く

## （ANALOG DIRECT）

選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。
この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。




### 1 入力切り換え用のボタンでアナログで聞きたい入力を選ぶ。

本体のINPUT SELECTORつまみで選ぶこともできます。

### 2 2CH/A.DIRECTをくり返し押して、「A.DIRECT」を選ぶ。

アナログ音声が出力されます。

**アナログダイレクト機能を取り消すには**

もう一度2CH/A.DIRECTを押す。
または、サウンドフィールドボタンのどれかを押しても取り消されます。

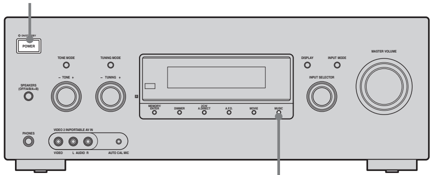
次のページへつづく

**ご注意**

- ヘッドホンがつながれていると、表示窓に「HP DIRECT」が表示されます。
- BDやDMPORT入力を選んでいるときは、アナログダイレクト機能は選べません。

# サラウンド効果をお買い上げ時の設定に戻す

本体のボタンを使って操作してください。




**1** I/⏻（電源）を押して本機の電源を切る。

**2** MUSICを押しながら、I/⏻（電源）を押す。

表示窓に「S.F. CLEAR」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

# FM/AMラジオを聞く

内蔵チューナーを使って、FM/AMラジオを聞くことができます。操作の前に、アンテナが接続されていることを確認してください（30ページ）。

## 自動で受信する




**1** TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

**2** TUNING ＋またはTUNING －を押す。

TUNING ＋を押すと、低い周波数から高い周波数へと放送局をスキャンします。TUNING －を押すと、高い周波数から低い周波数へと放送局をスキャンします。
放送局を受信すると自動的にスキャンを停止します。

### 本体で操作するには

1 INPUT SELECTORつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ。
2 TUNING MODEをくり返して押して、「AUTO」を選ぶ。
3 TUNING +/－を回す。

### FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときや、表示窓の「ST」が点滅しているときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

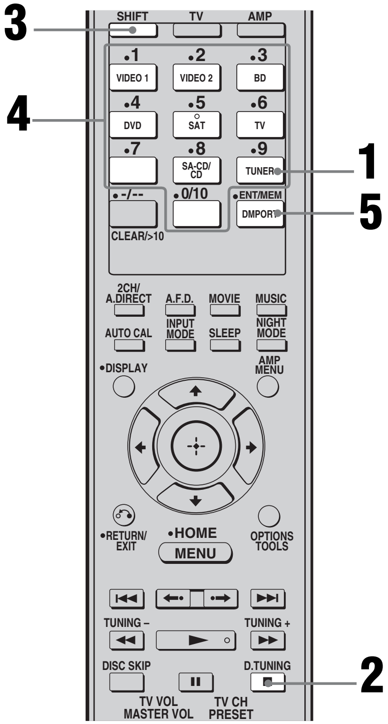
- モノラル受信を選ぶには、TUNERメニューの「FM MODE」を「MONO」に設定する（52ページ）。
- ステレオ受信に戻すには、TUNERメニューの「FM MODE」を「STEREO」に設定する（52ページ）。



次のページへつづく

## 手動で受信する

数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます。




### 1 TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

### 2 D. TUNINGを押す。

### 3 SHIFTを押す。

### 4 数字ボタンを押して、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。

例：「88.00MHz」を選局するときは、次のように数字ボタンを押します。

8 → 8 → 0

### 5 ENT/MEMを押す。

本体のMEMORY/ENTERを使うこともできます。

**ちょっと一言**

AM放送を受信するときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

### 放送局を受信できないときは

正しい周波数が入力されているか確認してください。正しい周波数が入力されていない場合は、手順2 ～ 5をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

# 放送局を登録する

FM局を30局とAM局を30局登録できます。よく聞く放送局を簡単に受信できるようになります。

## 登録する




**1** TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

**2** 登録したい放送局を自動（63ページ）または手動（64ページ）で受信する。

必要に応じてFM放送局の受信モードを切り換えてください（64ページ）。

**3** SHIFTを押す。

**4** ENT/MEMを押す。

本体のMEMORY/ENTERを使うこともできます。

表示窓の「MEM」が数秒間点灯します。

「MEM」が点灯している間に手順5～6を行ってください。

**5** 数字ボタンを押して、プリセット番号を選ぶ。

PRESET ＋またはPRESET －を押して、プリセット番号を選ぶこともできます。プリセット番号を選ぶ前に「MEM」が消灯してしまった場合は、手順3からやり直してください。

**6** ENT/MEMを押す。

本体のMEMORY/ENTERを使うこともできます。

「MEM」が消え、選んだプリセット番号で放送局が登録されます。

**7** 手順1～6をくり返して、他の放送局を登録する。



次のページへつづく

## 登録した放送局を聞く




**1** TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

**2** PRESET ＋またはPRESET －をくり返し押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

ボタンを押すたびに、プリセット番号は以下のように切り換わります。

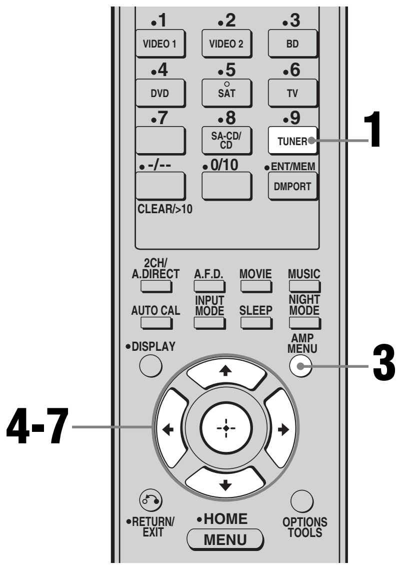
→01↔02↔03↔04↔05↔...↔27←
→30↔29↔28←

SHIFTを押してから数字ボタンを押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶこともできます。プリセット番号を選んだあと、ENT/MEMを押して確定してください。

### 本体のボタンで操作するには

1 INPUT SELECTORつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ。
2 TUNING MODEをくり返して押して、「PRESET」を選ぶ。
3 TUNING +/－を回して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

## 登録した放送局に名前を付ける




**1** TUNERをくり返し押して、FMまたはAMを選ぶ。

本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

**2** 名前を付けたい放送局を受信する（66ページ）。

**3** AMP MENUを押す。

**4** ↑/↓をくり返し押して、「TUNER」を選ぶ。

**5** ⊕または→を押して、メニューを表示する。

**6** ↑/↓をくり返し押して、「NAME IN」を選ぶ。

**7** ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

カーソルが点滅し、文字を選べるようになります。「名前を入力するには」に従って、文字を入力します。

### 名前を入力するには

1 ↑/↓/←/→をくり返し押して、文字を入力する。

↑/↓で文字を選び、←/→でカーソルを移動する。

**間違えたら**

←/→で訂正したい文字を点滅させ、↑/↓で正しい文字を選ぶ。

**ちょっと一言**

- ↑/↓で文字の種類を選べます。押すたびに、以下の順で切り換わります。
  アルファベット→数字→記号
- 空白を入れるには、文字を選ばずに→を押します。

2 ⊕を押して、入力を確定する。

入力した名前が保存されます。

ラジオを楽しむ

# “ブラビアリンク”機能でHDMI機器制御機能を使う

“ブラビアリンク”はHDMI機器制御機能を搭載したソニーのテレビやDVD／ブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。
“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記の操作ができます。

- ワンタッチ再生：DVD／ブルーレイディスクレコーダーを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、入力がHDMIに切り換わります。
- システムオーディオコントロール：テレビを視聴しているとき、音声をテレビのスピーカーから出力するか、本機につないだスピーカーから出力するか選択できます。
- 電源オフ連動：テレビまたは本機のリモコンでテレビの電源を切ると、HDMIでつないだ機器（本機、再生機器）の電源も連動して切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えます。

HDMI機器制御機能は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

### HDMI機器制御機能は、以下の場合働きません。

- HDMI機器制御機能に対応していない機器をつないだ場合
- 本機と各機器をHDMIでつないでいない場合

本機は、“ブラビアリンク”機能に対応している機器とつなぐことをおすすめします。

**ご注意**

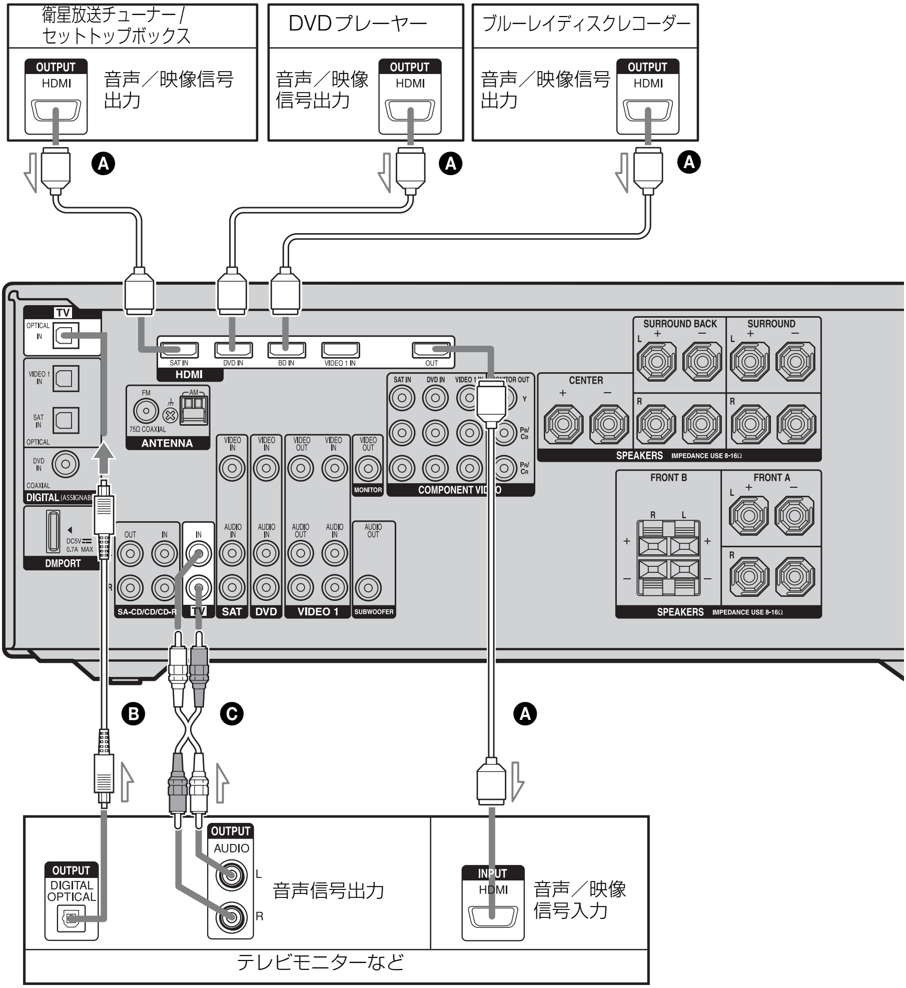
つないでいる機器によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

## テレビと他機器をつなぐ

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

### テレビのマルチチャンネルサラウンドサウンド放送を楽しむには

本機につないだスピーカーからテレビのマルチチャンネルサラウンドサウンド放送をお楽しみいただけます。
テレビのOPTICAL出力端子を本機のOPTICAL IN端子につないでください。




Ⓐ HDMIケーブル（別売）

**ソニー製のHDMIケーブルを推奨します。**

Ⓑ 光（OPTICAL）デジタル接続コード（別売）a)

Ⓒ 音声コード（別売）a)

a) 少なくともどちらかの音声コードをつないでください。



次のページへつづく

# “ブラビアリンク”機能を使う準備をする

“ブラビアリンク”機能を使うには、HDMI機器制御機能を有効に設定する必要があります。
本機は、「HDMI機器制御設定連動」に対応しています。
「HDMI機器制御設定連動」に対応しているテレビをお使いの場合は、テレビの“ブラビアリンク”機能を設定すると、本機の設定内容も連動して設定されます。設定中は本機の表示窓に「SCANNING」が点滅し、自動的に本機の入力がHDMI入力に切り換わります。設定が終わると「COMPLETE」と表示されます。設定が終わるまでお待ちください。操作について詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
「HDMI機器制御設定連動」に非対応のテレビをお使いの場合は、HDMI機器制御機能をお使いいただくために以下の設定を行ってください。テレビや接続機器の設定について詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

**1** 本機とテレビ、再生機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）

**2** 本機とテレビ、再生機器の電源を入れる。

**3** テレビと本機のHDMI機器制御機能を有効にする。
本機の設定方法については、「HDMI機器制御機能を設定する」（71ページ）をご覧ください。
テレビの設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

**4** 本機のHDMI入力を選び、選んだ再生機器の映像がテレビに表示されることを確認する。

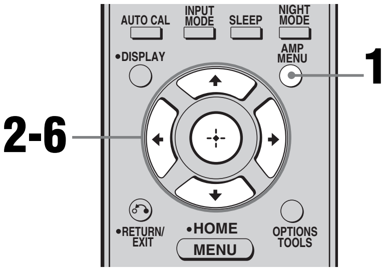
**5** 本機のHDMI入力で選ばれている再生機器のHDMI機器制御機能を有効にする。
すでに有効になっている場合は、設定を変更する必要はありません。

**6** 手順4と5をくり返し、HDMI接続されたすべての機器の映像がテレビに表示されることを確認する。

**ご注意**

- HDMIケーブルを抜いたり、接続を変えたときは、本ページの手順1から6を行ってください。
- 「HDMI機器制御設定連動」の設定中は、ワンタッチ再生やシステムオーディオコントロールの機能は働きません。
- テレビから「HDMI機器制御設定連動」で設定する場合、事前にテレビと本機、再生機器の電源を入れてください。
- 「HDMI機器制御設定連動」に対応していない再生機器は、テレビのHDMI機器制御機能設定を有効にする前にHDMI機器制御機能を有効にしてください。

### HDMI機器制御機能を設定する




**1** AMP MENUを押す。

**2** ↑/↓をくり返し押して、「HDMI」を選ぶ。

**3** ⊕または→を押して、メニューに入る。

**4** ↑/↓をくり返し押して、「CTRL: HDMI」を選ぶ。

**5** ⊕または→を押して、パラメターに入る。

**6** ↑/↓をくり返し押して、「CTRL ON」を選ぶ。

HDMI機器制御機能が有効になります。

# DVDを見る

## （ワンタッチ再生）

簡単な操作で、HDMI接続された機器を自動的に起動して視聴できます。

### 再生機器（DVDプレーヤーなど）を再生する。

必要に応じて、本機とテレビの電源も連動して入り、それぞれの入力が自動的に適切なHDMI入力に切り換わります。

### DVDをシンプルな操作で視聴する

テレビのメニューを使って、DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダーなどの接続機器を選ぶことができます。この場合、本機とテレビは自動的にHDMI入力に切り換わります。

**ご注意**

テレビによっては、最初の部分が出力されないことがあります。

# テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

## （システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しめます。
システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
システムオーディオコントロール機能が有効になっていると、本機の電源が切になっていても、状況に応じて電源が入り、適切な入力に切り替ります。
また、テレビの音声が本機につないだスピーカーから出力されると、テレビの音量は自動的に消音されます。
その他、以下のように働きます。

- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機につないだスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、本機につないだスピーカーの音量を調節できます。

**ご注意**

- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがあります。お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- システムオーディオコントロール機能によって、HDMIメニューの「AUDIO OUT」は自動的に設定されます。
- システムオーディオコントロール機能のないテレビをつないだ場合は、システムオーディオコントロール機能は働きません。
- 本機の電源を入れてからテレビの音声が本機から出力されるまでには多少時間がかかることがあります。
- HDMIまたはテレビ以外の入力に切り換えると、システムオーディオコントロール機能は自動的に働かなくなります。
- 他の入力からHDMIまたはテレビの入力に切り換えると、状況に応じて、システムオーディオコントロールの設定が変わります。

## デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える

### （オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。
オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能が有効になっている場合のみ働きます。

**1** **AMP MENUを押す。**

**2** **↑/↓をくり返し押して、「HDMI」を選び、⊕を押す。**

**3** **↑/↓をくり返し押して、「SOUND.FIELD」を選び、⊕または→を押す。**

**4** **↑/↓をくり返し押して、設定を選ぶ。**

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

**5** **AMP MENUを押す。**

## 番組情報対応表

| 番組情報（EPG情報） | オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド |
|---|---|
| ニュース/報道 | 2CH ST |
| スポーツ | SPORTS |
| 情報/ワイドショー | A.F.D. AUTO |
| ドラマ | A.F.D. AUTO |
| 音楽 | 詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。 |
| バラエティ | A.F.D. AUTO |
| 映画 | C.ST.EX B |
| アニメ/特撮 | A.F.D. AUTO |
| ドキュメンタリー | A.F.D. AUTO |
| 劇場/公演 | CONCERT |
| 趣味/教育 | A.F.D. AUTO |
| 福祉 | A.F.D. AUTO |
| その他 | A.F.D. AUTO |
| スポーツ（CS） | SPORTS |
| 洋画（CS） | C.ST.EX B |
| 邦画（CS） | C.ST.EX B |
| 情報なし | A.F.D. AUTO |

## 音楽番組詳細ジャンル対応表

| 詳細ジャンル | サウンドフィールド |
|---|---|
| 国内ロック/ポップス | CONCERT |
| 海外ロック/ポップス | CONCERT |
| クラシック/オペラ | HALL |
| ジャズ/フュージョン | JAZZ |
| 歌謡曲/演歌 | CONCERT |
| ライブ/コンサート | CONCERT |
| ランキング/リクエスト | CONCERT |
| カラオケ/のど自慢 | CONCERT |
| 民謡/邦楽 | CONCERT |
| 童謡/キッズ | CONCERT |
| 民族音楽/ワールドミュージック | CONCERT |

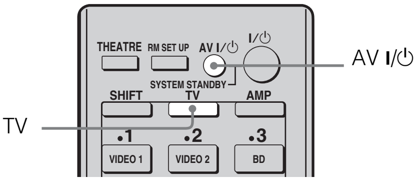
**ご注意**

番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。

# テレビと本機の電源を切る

## （電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と再生機器の電源も連動して切ることができます。
また、本機のリモコンでも電源オフ連動の操作ができます。




### TVを押してから、AV I/⏻を押す。

HDMIでつないだすべての機器の電源が切れます。

**ご注意**

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 状態によっては、接続機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

# デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

## (INPUT MODE)

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。

**1 本体のINPUT SELECTORつまみを回す。**

またはリモコンの入力切り換え用ボタンを押します。

**2 本体のINPUT MODEをくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。**

本機の表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。

### 音声入力モード

#### ■ AUTO

デジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
複数のデジタル音声入力がある場合は、HDMI音声信号がCOAXIALやOPTICAL音声信号より優先されます。
デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。

#### ■ COAX

DIGITAL COAXIAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。

#### ■ OPT

DIGITAL OPTICAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。

#### ■ ANALOG

AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

**ご注意**

- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- アナログダイレクト機能を使っているときは、音声入力モードは「ANALOG」に設定されます。他のモードは選べません。
- デジタルメディアポートアダプターを選んでいるときは、「------」と表示され、他の項目は選べません。デジタルメディアポートアダプター以外の入力を選んでください。

# 選んだ入力にデジタル音声端子を割り当てる

## （DIGITAL ASSIGN）

OPTICALやCOAXIALのデジタル音声入力端子を持っている入力（VIDEO 1 IN、SAT IN、DVD IN）を使っていないときに、他の入力に割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーを本機のOPTICAL IN端子につないで、デジタル音声入力のソースにする場合

- DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL VIDEO 1 IN端子につなぎます。
- 「D. ASSIGN」の設定で「VD1 OPT」を「DVD」に割り当てます。

**1** AMP MENUを押す。

**2** ↑/↓をくり返し押して、「AUDIO」を選ぶ。

**3** ⊕または→を押して、メニューを表示する。

**4** ↑/↓をくり返し押して、「D. ASSIGN」を選ぶ。

**5** ⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。

**6** ↑/↓をくり返し押して、空いているデジタル音声入力（例：「VD1 OPT」）を選ぶ。

**7** ⊕または→を押して、確定する。

**8** ↑/↓をくり返し押して、手順6で選んだデジタル音声入力を割り当てたい入力（例：「VD1 → DVD」）を選ぶ。

DVD入力が選ばれると、DVDプレーヤーの音声がOPTICAL VIDEO 1端子からデジタル音声として出力されます。
割り当てができる入力は、各デジタル音声入力によって異なります。詳しくは、「デジタル音声入力に割り当てできる入力」（76ページ）をご覧ください。

### 前の表示に戻るには

←を押します。

### デジタル音声入力に割り当てできる入力

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

| デジタル音声入力 [表示] | 割り当てできる入力 | 表示 |
|---|---|---|
| OPTICAL VIDEO 1 IN [VD1 OPT] | VIDEO 1 | <u>VD1</u>→<u>[VD1]</u> |
| | VIDEO 2 | VD1→[VD2] |
| | BD | VD1→[BD] |
| | DVD | VD1→[DVD] |
| | SA-CD/CD | VD1→[CD] |
| COAXIAL DVD IN [DVD COAX] | VIDEO 1 | DVD→[VD1] |
| | VIDEO 2 | DVD→[VD2] |
| | BD | DVD→[BD] |
| | DVD | <u>DVD</u>→<u>[DVD]</u> |
| | SAT | DVD→[SAT] |
| | SA-CD/CD | DVD→[CD] |
| OPTICAL SAT IN [SAT OPT] | VIDEO 2 | SAT→[VD2] |
| | BD | SAT→[BD] |
| | DVD | SAT→[DVD] |
| | SAT | <u>SAT</u>→<u>[SAT]</u> |

**ご注意**

- 同じ入力に複数のデジタル音声を同時に割り当てることはできません。
- 他の入力に割り当てられたデジタル音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODEの設定が必要になる場合があります（75ページ）。

# デジタルメディアポートアダプターを使う

## （DMPORT）

デジタルメディアポートアダプターを使って、本機でポータブルオーディオプレーヤーなどからの音楽を楽しめます。
デジタルメディアポートアダプター TDM-NW10は別売です。

**ご注意**

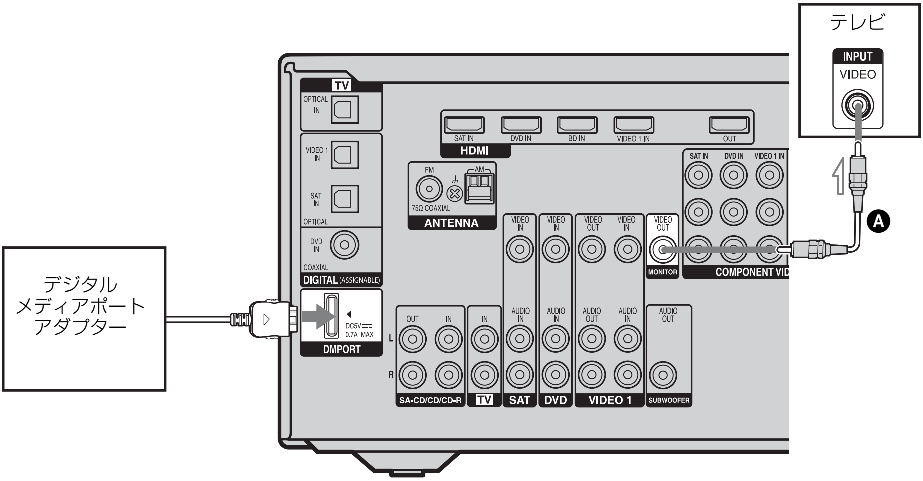
- 本機をデジタルメディアポートアダプター以外につながないでください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターによっては、映像出力ができないものがあります。



次のページへつづく

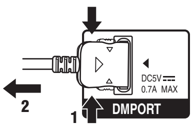
## デジタルメディアポートアダプターをつなぐ

デジタルメディアポートアダプターをDMPORT端子につないで、デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器の音楽を聞くことができます。




A 映像コード（別売）

### デジタルメディアポートアダプターをDMPORT端子から取りはずすときは




両側を押しながら、引き抜いてください。

### ご注意

- デジタルメディアポートアダプターをつなぐときは、▼マークの向きを合わせてください。
- コネクターはしっかりとまっすぐに差し込んでください。
- デジタルメディアポートアダプターのコネクターは壊れやすいため、本機を設置または移動するときは、取り扱いに充分注意してください。

## 本機につないだ機器を再生する

**1** **DMPORTを押す。**

本体のINPUT SELECTORを使って、「DMPORT」を選ぶこともできます。

**2** **つないだ機器の再生を始める。**

つないだ機器の音楽が本機で再生されます。
操作について詳しくは、デジタルメディアポートアダプターの取扱説明書をご覧ください。

**ご注意**

- デジタルメディアポートアダプターの種類によっては、リモコンで本機につないだ機器を操作できます。リモコン操作について詳しくは、12ページをご覧ください。
- 必ず、本機のMONITOR OUT端子をテレビに接続してください（78ページ）。

**ちょっと一言**

本機につないだポータブルオーディオで、MP3音声トラックや、その他の圧縮されたソースを聞くときに、音を増強することができます。MUSICをくり返し押して、「PORTABLE」を選んでください（59ページ）。

# 入力に名前を付ける

入力に8文字までの名前を付けて、表示できます。
機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。

**1** **入力切り換えボタンを押して、名前を付けたい入力を選ぶ。**

本体のINPUT SELECTORつまみも使えます。

**2** **AMP MENUを押す。**

**3** **↑/↓をくり返し押して、「SYSTEM」を選ぶ。**

**4** **⊕または→を押して、メニューを表示する。**

**5** **↑/↓をくり返し押して、「NAME IN」を選ぶ。**

**6** **⊕または→を押して、設定項目のパラメーターを表示する。**

カーソルが点滅し、文字を選べるようになります。「名前を入力するには」（67ページ）に従って、文字を入力します。

# 表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドの情報などを確認できます。
本体のボタンを使って操作してください。

## DISPLAYをくり返し押す。

DISPLAYを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

### FM/AM放送局以外の入力

登録した名前* → 選ばれている入力 → 現在のサウンドフィールド → 音量 → ストリーム情報

### FM/AM放送局

登録した放送局* → 周波数 → 現在のサウンドフィールド

* 名前は、入力や放送局に名前を付けてある場合のみ表示されます（66、79ページ）。名前が空白だったり、入力名と同じだったりした場合は表示されません。

# スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。

## SLEEPをくり返し押す。

表示窓に「SLEEP」が表示されます。
SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

OFF → 0:30:00 → 1:00:00 → 1:30:00 → 2:00:00

**ちょっと一言**
スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。もう一度SLEEPを押すと、スリープタイマーが解除されます。

# 他機に録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お手持ちの録音／録画機器の取扱説明書もご覧ください。

## カセットテープやミニディスクに録音する

本機を使ってカセットテープまたはミニディスクに録音できます。お手持ちのMDデッキまたはカセットデッキの取扱説明書もご覧ください。

**1 再生機器を接続した入力の入力切り換え用のボタンを押す。**

本体のINPUT SELECTORつまみも使えます。

**2 再生機器を準備する。**

例：CDプレーヤーにディスクを入れる。

**3 録音機器を準備する。**

ミニディスクまたはカセットテープを入れ、録音レベルを調節する。

**4 録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。**

**ご注意**

サウンド調整は、SA-CD/CD/CD-R OUT端子から出力される音声に影響しません。

## 録画する

**1 再生機器を接続した入力の入力切り換え用のボタンを押す。**

本体のINPUT SELECTORつまみも使えます。

**2 再生機器の準備をする。**

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

**3 録画機器の準備をする。**

（VIDEO 1につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

**4 録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。**

**ご注意**

録画防止機能のあるソースは録画できません。

# お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する

リモコンコードを変えて、本機につないだ他社製の機器を操作できるように設定できます。リモコンに操作信号を記憶させた後は、それらの機器をシステムの一部のように操作できます。
また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器も設定できます。このリモコンで操作できるのは、赤外線コントロールを受け付ける機器のみです。

## 1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。

RM SET UPがゆっくり点滅します。

## 2 RM SET UPが点滅している間に、入力切り換え用のボタンを押して設定したい入力を選ぶ。

たとえば、CDプレーヤーを操作したいときは、SA-CD/CDを押します。
RM SET UPとSHIFTボタンが点灯します。

## 3 数字ボタンを押して、（テレビ以外の）機器とメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの1つ を入力する）。

機器とメーカー別の対応コードは、83ページ～86ページの表をご覧ください。3桁の最初の数字はカテゴリーを、残りの2桁は各メーカーのコードを表します。

## 4 ENT/MEMを押す。

有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回ゆっくり点滅し、設定モードが終了します。

## 5 他の機器を操作するときは、手順1から4を繰り返す。

**ご注意**

- 有効なボタンが押されると、表示が消えます。
- 手順2で他の入力に変えたいときは、SHIFTを押してから新しい入力ボタンを押します。
- 手順2でTUNERを押したときは、チューナー操作ボタンのみ設定されます（86ページ）。
- 数字ボタンを押し間違えた場合は、続けて正しいボタンを押してください。最後に押された3つの数字ボタンが有効です。

### リモコンにテレビの操作を設定するには

1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。
RM SET UPがゆっくり点滅します。
2 TVを押す。
RM SET UPとSHIFTボタンが点灯します。
3 数字ボタンを押して、テレビのメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの1つ を入力する）。
85ページの表をご覧ください。
4 ENT/MEMを押す。
有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回ゆっくり点滅し、設定モードが終了します。

### 設定操作を途中でやめるときは

手順の途中で、RM SET UPを押します。
RM SET UPが5回続けて点滅し、設定モードが終了します。

### 設定した機器から入力するには

その機器を設定した入力切り換え用のボタンを押す。

### 設定できないときは

以下をご確認ください。

- 手順1でRM SET UPが点滅しないときは、電池の残量が少なくなっています。2本とも新しい電池と交換してください。
- コードを入力中にRM SET UPが5回続けて点滅するときは入力に失敗しました。もう一度手順1からやり直してください。

### リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

## MASTER VOL −を押したまま I/⏻を押し、両方のボタンを押したままAV I/⏻を押す。

RM SET UPが3回点滅します。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

### 機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、ひとつの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。あるひとつのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

**ご注意**

- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 操作する機器によっては、本機の特定のボタンが機能しなくなる場合があります。

### CDプレーヤーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 101、102、103 |
| DENON | 104、123 |
| JVC | 105、106、107 |
| KENWOOD | 108、109、110 |
| MAGNAVOX | 111、116 |
| MARANTZ | 116 |
| ONKYO | 112、113、114 |
| PANASONIC | 115 |
| PHILIPS | 116 |
| PIONEER | 117 |
| TECHNICS | 115、118、119 |
| YAMAHA | 120、121、122 |

### DATデッキの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 203 |
| PIONEER | 219 |

### MDデッキの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 301 |
| DENON | 302 |
| JVC | 303 |



次のページへつづく

| メーカー | コード |
|---|---|
| KENWOOD | 304 |

## カセットデッキの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 201、202 |
| DENON | 204、205 |
| KENWOOD | 206、207、208、209 |
| NAKAMICHI | 210 |
| PANASONIC | 216 |
| PHILIPS | 211、212 |
| PIONEER | 213、214 |
| TECHNICS | 215、216 |
| YAMAHA | 217、218 |

## LDプレーヤーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 601、602、603 |
| PIONEER | 606 |

## ビデオCDプレーヤーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 605 |

## ビデオデッキの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 701、702、703、704、705、706 |
| AIWA* | 710、750、757、758 |
| AKAI | 707、708、709、759 |
| BLAUPUNKT | 740 |
| EMERSON | 711、712、713、714、715、716、750 |
| FISHER | 717、718、719、720 |
| GENERAL ELECTRIC (GE) | 721、722、730 |
| GOLDSTAR/LG | 723、753 |
| GRUNDIG | 724 |
| HITACHI | 722、725、729、741 |
| ITT/NOKIA | 717 |
| JVC | 726、727、728、736 |
| MAGNAVOX | 730、731、738 |
| MITSUBISHI/MGA | 732、733、734、735 |
| NEC | 736 |
| PANASONIC | 729、730、737、738、739、740 |
| PHILIPS | 729、730、731 |
| PIONEER | 729 |
| RCA/PROSCAN | 722、729、730、731、741、747 |
| SAMSUNG | 742、743、744、745 |
| SANYO | 717、720、746 |
| SHARP | 748、749 |
| TELEFUNKEN | 751、752 |
| TOSHIBA | 747、756 |
| ZENITH | 754 |

* アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

## DVDプレーヤーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 401、402、403 |
| BROKSONIC | 424 |
| DENON | 405 |
| HITACHI | 416 |
| JVC | 415、423 |
| MITSUBISHI | 419 |
| ORITRON | 417 |
| PANASONIC | 406、408、425 |
| PHILIPS | 407 |
| PIONEER | 409、410 |
| RCA | 414 |
| SAMSUNG | 416、422 |
| TOSHIBA | 404、421 |
| ZENITH | 418、420 |

## DVDレコーダーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 401、402、403 |

## テレビの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 501 |
| AIWA | 501、536、539 |
| AKAI | 503 |
| AOC | 503 |
| CENTURION | 566 |
| CORONADO | 517 |
| CURTIS-MATHES | 503、551、566、567 |
| DAYTRON | 517、566 |
| DAEWOO | 504、505、506、507、515、544 |
| FISHER | 508、545 |
| FUNAI | 548 |
| FUJITSU | 528 |
| GOLDSTAR/LG | 503、512、515、517、534、544、556、568 |
| GRUNDIG | 511、533、534 |
| HITACHI | 503、513、514、515、517、519、544、557、571 |
| ITT/NOKIA | 521、522 |
| J.C.PENNY | 503、510、566 |
| JVC | 516、552 |
| KMC | 517 |
| MAGNVOX | 503、515、517、518、544、566 |
| MARANTZ | 527 |
| MITSUBISHI/MGA | 503、519、527、544、566、568 |
| NEC | 503、517、520、540、544、554、566 |
| NORDMENDE | 530、558 |
| NOKIA | 521、522、573、575 |
| PANASONIC | 509、524、553、559、572 |
| PHILIPS | 515、518、557、570、571 |
| PHILCO | 503、504、514、517、518 |
| PIONEER | 509、525、526、540、551、555 |
| PORTLAND | 503 |
| QUASAR | 509、535 |
| RADIO SHACK | 503、510、527、565、567 |
| RCA/PROSCAN | 503、510、523、529、544 |
| SAMSUNG | 503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569 |
| SAMPO | 566 |
| SABA | 530、537、547、549、558 |
| SANYO | 508、545、546、560、567 |
| SCOTT | 503、566 |
| SEARS | 503、508、510、517、518、551 |
| SHARP | 517、535、550、561、565 |
| SYLVANIA | 503、518、566 |
| THOMSON | 530、537、547、549 |
| TOSHIBA | 535、539、540、541、551 |
| TELEFUNKEN | 530、537、538、547、549、558 |
| TEKNIKA | 517、518、567 |
| WARDS | 503、517、566 |
| YORK | 566 |
| ZENITH | 542、543、567 |
| GE | 503、509、510、544 |
| LOEWE | 515、534、556 |

## BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 801、802、803、804、824、825、865 |
| AMSTRAD | 845、846 |
| BskyB | 862 |
| GENERAL ELECTRIC (GE) | 866 |
| GRUNDING | 859、860 |
| HUMAX | 846、847 |
| THOMSON | 857、861、864、876 |
| PACE | 848、849、850、852、862、863、864 |
| PANASONIC | 818、855 |
| PHILIPS | 856、857、858、859、860、864、874 |
| NOKIA | 851、853、854、864 |
| RCA/PROSCAN | 866、871 |
| HITACHI/BITA | 868 |
| HUGHES | 867 |



次のページへつづく

| メーカー | コード |
|---|---|
| JVC/Echostar/ Dish Network | 873 |
| MITSUBISHI | 872 |
| SAMSUNG | 875 |
| TOSHIBA | 869、870 |

### ケーブルテレビチューナーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 821、822、823 |
| HAMLIN/ REGAL | 836、837、838、839、840 |
| JERROLD/G.I./ MOTOROLA | 806、807、808、809、810、811、812、813、814、819 |
| JERROLD | 830、831 |
| OAK | 841、842、843 |
| PANASONIC | 816、826、832、833、834、835 |
| PHILIPS | 830、831 |
| PIONEER | 828、829 |
| RCA | 805 |
| SCIENTIFIC ATLANTA | 815、816、817、844 |
| TOCOM/ PHILIPS | 830、831 |
| ZENITH | 826、827 |

### チューナーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 002、005 |

### ハードディスクレコーダーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 307、308、309 |

### ブルーレイディスクレコーダーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 310、311、312 |

### PSXの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 313、314、315 |

### DVD/ビデオコンボプレーヤーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 411 |

### DVD/ハードディスクコンボプレーヤーの対応コード

| メーカー | コード |
|---|---|
| SONY | 401、402、403 |

# 用語集

### ■ AAC（MPEG-2 AAC）

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現できます。

### ■ Component（コンポーネント）映像

映像信号を輝度Yと色差 Pb、Pr の3系統に分けて伝送する映像端子です。DVDビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

### ■ Composite（コンポジット）映像

映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度Yと色Cを1つにまとめて伝送します。

### ■ Deep Color

HDMI端子内を通る信号の色深度を高めたビデオ信号です。
従来のHDMI端子では、1ピクセル（画素）で表現可能な色数は24ビット（16,777,216色）でしたが、Deep Colorに対応した場合、より高い36ビットなどに対応することが可能になります。
多ビット化により色の濃さの階調をより細かく表現できるため、連続した色の変化をなめらかに表すことができます。

### ■ Digital Cinema Sound（DCS）

映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

### ■ Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。フロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーの5.1chで構成され、DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

### ■ Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plusは従来のドルビーデジタルをさらに高音質・高機能に進化させた音声フォーマットで、HDクオリティの映像にリッチなサラウンドサウンドを提供する柔軟性と効率性を備えています。Dolby Digital Plusの優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1chの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

### ■ Dolby Digital Surround EX

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。Dolby Digitalの5.1ch信号のサラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に6.1chで出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

### ■ Dolby Pro Logic II

2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

### ■ Dolby Pro Logic IIx

7.1ch（または6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンドEX作品に加え、通常の5.1ch ドルビーデジタル作品を7.1ch（または6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも7.1ch（または6.1ch）で再生できます。

次のページへつづく

## ■ Dolby Surround（Dolby Pro Logic）

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。

## ■ Dolby TrueHD

Dolby TrueHDはドルビーラボラトリーズによって開発された次世代光ディスク向けのロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。Dolby TrueHDはスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現し、96 kHz/24ビットでは最大8ch、192 kHz/24ビットでは最大6chのサラウンド音声をサポートしています。HD映像との組み合わせにより、Dolby TrueHDはこれまで想像できなかったほどのハイクオリティなホームシアター体験を提供します。

## ■ DTS 96/24

高音質再生フォーマットです。DVDビデオでは最高の、サンプリング周波数96 kHz／量子化ビット数24ビットで音を記録します。

## ■ DTS-ES

サラウンドバックを加えた6.1ch方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート6.1」と、ドルビーサラウンドEXと同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス6.1」の2種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

## ■ DTS-HD

従来のDTSデジタルサラウンドを拡張したオーディオフォーマットです。
コアとエクステンションで構成され、コア部はDTSデジタルサラウンドと互換性を持っています。
DTS-HDには、DTS-HD High Resolution AudioとDTS-HD Master Audioの2種類があります。
DTS-HD High Resolution Audioは、最大転送レートが6 Mbpsの非可逆圧縮（Lossy）で、最大96 kHzのサンプリング周波数と最大7.1chに対応します。
DTS-HD Master Audioは、最大転送レートが24.5 Mbpsの可逆圧縮（Lossless）で、48 kHzまたは96 kHzのサンプリング周波数で最大7.1ch、192 kHzのサンプリング周波数で最大5.1chに対応します。

## ■ DTS Neo:6

2chステレオで記録された音声を7chに変換して再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

## ■ DTSデジタルサラウンド

DTS社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。約4分の1の比較的低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

## ■ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

テレビ接続機器のデジタル映像／音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応しています。

## ■ Neural-THX

Neural-THXサラウンドは5.1chやステレオ処理された音声を360度、7.1chに拡張する次世代サラウンド技術です。これまでのサラウンド技術に比べて、さらにオリジナル音声に忠実で臨場感のある音響を再現します。
Neural-THXサラウンドは、狭い帯域幅で高音質のマルチチャンネルサラウンド音声の放送を可能にします。また、Neural-THXサラウンドでは、他の再生方式では通常失われて

しまう部分の音声も細部まで再現するので、映画や音楽、ゲームの深い味わいや繊細な雰囲気まで実感できます。
音響デザイナーがNeural-THXサラウンド技術を使って作ったソースは、Neural-THXサラウンドを搭載した再生機器でオリジナルに忠実に再生されます。

## ■ x.v.Color

x.v.Colorとは、xvYCC規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。
xvYCC規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

## ■ シネマスタジオEX

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の3つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が7.1chまでの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。スタジオの種類によりA/B/Cの3つのモードを選べます。

## ■ サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要があります。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数といいます。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1 kHzと表します。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になります。

# 使用上のご注意

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

### 使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

### ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。




窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

### 本機のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

# 故障かな？と思ったら

修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

## 音声

**どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない**

- → スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- → スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。
- → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。
- → MASTER VOLUMEが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
- → 本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）が「OFF」になっていないか確認する（32ページ）。
- → ヘッドホンがつながれていないか確認する。
- → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。
- → 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTOR）で正しい入力が選ばれているか確認する（40ページ）。
- → 小音量でしか聞こえないときはNIGHT MODEが働いていないか確認する（60ページ）。
- → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れる。

**選んだ機器から音が出ない**

- → 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。
- → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。

**片方のフロントスピーカーから音が出ない**

- → ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。
- → アナログ機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。音声コード（別売）を使ってL/R両方の端子に接続してください。

**アナログ2チャンネル入力の音が出ない**

- → 選んだ入力のINPUT MODEが「AUTO」に設定されていないか確認する（75ページ）。また選んだ入力がDIGITALやHDMI接続されていないか確認する。
- → 選んだ入力のINPUT MODEが「COAX」または「OPT」に設定されていないか確認する（75ページ）。
- → 選んだ入力に、外部入力メニューの「DIGITAL ASSIGN」機能を使ってデジタル音声入力を割り当てていないか確認する（76ページ）。

**デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない**

- → INPUT MODE機能を使って「ANALOG」を選んでいないか確認する（75ページ）。
- → アナログダイレクト機能を使っていないか確認する。
- → 選んだ入力のデジタル音声入力を、外部入力メニューの「DIGITAL ASSIGN」機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（76ページ）。

**本機に接続した機器の電源を入れると、パチンという音がする**

- → 選んだ入力のINPUT MODEが「AUTO」に設定されていないか確認する（75ページ）。



次のページへつづく

**左右の音のバランスが悪い、または逆転している**

➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する（47ページ）。

**ハム音またはノイズがひどい**

➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。
➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

**センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない**

➔ シネマスタジオEXモードを選ぶ（58ページ）。
➔ スピーカーの音量を調節する（39ページ）。
➔「SP PATTERN」の設定を確認する（48ページ）。

**サブウーファーの音が出ない**

➔ サブウーファーが正しく接続されているか確認する。
➔ サブウーファーの電源が入っているか確認する。
➔ 選んでいるサウンドフィールドによっては、サブウーファーからは音が出ません。
➔ すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「NEO6 CIN」または「NEO6 MUS」が選ばれているとサブウーファーからは音が出ません。
➔「SP PATTERN」の設定を確認する（48ページ）。

**サラウンド効果が得られない**

➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIEまたはMUSICを押す）。
➔ サンプリング周波数が88.2 kHz以上の信号を受信しているときは、サウンドフィールドは機能しません。

**ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない**

➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。
➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。

**録音ができない**

➔ 各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ 入力切り換え用のボタンで録音したい機器を選ぶ（40ページ）。

**デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器から音がでない**

➔ 本機の音量を確認してください。
➔ デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーが正しく接続されていません。本機の電源を切り、デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーをつなぎなおしてください。
➔ 本機がデジタルメディアポートアダプターとプレーヤーのデバイスに対応しているか確認してください。

## 映像

**テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない**

➔ 適切な入力を選ぶ。
➔ テレビの入力モードを確認する。
➔ テレビをオーディオ機器から離す。
➔ デジタルメディアポートアダプターによっては、映像を入力できません。

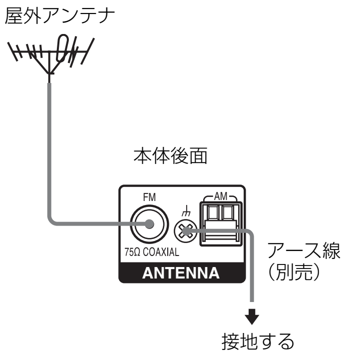
**録画ができない**

➔ 各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ 入力切り換え用のボタンで録画したい機器を選ぶ（40ページ）。

## ラジオ

### FM放送の受信状態が悪い

→ 75Ω同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外アンテナをつなぐ。本機と屋外アンテナをつなぐ場合は、避雷のため、アース線を使って接地してください。ガス爆発を防ぐため、アース線をガス管に接続しないでください。




### 放送局が受信できない

→ アンテナが正しくつながれているか確認する。アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使ったりする。
→ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。
→ AM局をダイレクト受信しているときは、受信範囲が正しいか確認する。
→ プリセットしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（65ページ）。
→ DISPLAYをくり返して押して、表示窓で周波数を確認する。
→ 雑音が入らないように、アンテナをスピーカーコードや電源コードから離す。

## HDMI

### HDMIに入力しているソースの音が本機または本機に接続したテレビからでない

→ HDMI接続を確認する（69ページ）。
→ HDMI接続でスーパーオーディオCDは聞けません。
→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。
→ 解像度が1125p（1080p）の映像やDeep Colorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（HDMI Version 1.3aカテゴリー2ケーブル）でつないでいるか確認する。

### HDMIに入力しているソースの映像が本機に接続したテレビからでない

→ HDMI接続を確認する（69ページ）。
→ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。
→ 解像度が1125p（1080p）の映像やDeep Colorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（HDMI Version 1.3aカテゴリー2ケーブル）でつないでいるか確認する。

### HDMI機器制御機能が働かない

→ HDMI接続を確認する（69ページ）。
→ HDMIメニューで「CTRL: HDMI」が「CTRL ON」に設定されていることを確認する。
→ 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。
→ 接続機器のHDMI機器制御機能設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
→ HDMI接続を変更したり、電源コードの抜き差しをしたり、電源に不具合があるときは、「"ブラビアリンク"機能を使う準備をする」（70ページ）の手順を繰り返す。

### システムオーディオコントロール機能を使っているときに本機とテレビの両方から音が出ない

→ テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
→ テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMIメニューの「AUDIO OUT」を下記のように設定する。
　－ テレビと本機につないだスピーカーから音を聞くときは、「TV+AMP」に設定する。



次のページへつづく

— 本機につないだスピーカーからのみ音を聞くときは、「AMP」に設定する。

➔ 本機に接続した機器の音声が聞こえない。
— 本機にHDMI接続した機器を視聴するときは、本機の入力をHDMIに切り換える。
— テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換える。
— テレビにつないだ他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、視聴したい機器または入力を選ぶ。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

➔ 番組情報の種類に合わせてサウンドフィールドが切り替わらない。
— つないだテレビがオートジャンルセレクターに対応しているか確認する。
— システムオーディオコントロールが有効になっているか確認する。
— 本機の電源を入れ直す。

## リモコン

**リモコンで操作できない**

➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。
➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
➔ リモコンの乾電池を交換する。
➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。
➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

## エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にエラーメッセージが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

PROTECTOR

➔ スピーカー出力に異常な電流が流れています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、再度電源を入れてください。

自動音場補正の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（37ページ）をご覧のうえ、表示に合った対応をしてください。

### その他の症状が出たときは

本機を初期設定状態にしてください（31ページ）。すべての設定がお買い上げ時の状態に戻りますので、再設定が必要になります。

### 本機の設定をリセットするための参照ページ

| リセットするもの | 参照ページ |
|---|---|
| すべての設定 | 31ページ |
| 調節したサウンドフィールド | 62ページ |

# 保証書とアフターサービス

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## アフターサービス

### 調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

### それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

### 部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

### 部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

### ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DG820
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

# 主な仕様

## アンプ部

**実用最大出力**

ステレオモード（8 Ω、JEITA）：
150 W
（1 kHz、THD 10%、8Ω）

サラウンドモード（8 Ω、JEITA）：
フロント部：150 W（1チャンネルあたり）
センター部：150 W
サラウンド部：150 W（1チャンネルあたり）

**スピーカー適合インピーダンス**

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
8 Ωまたはそれ以上

**高調波ひずみ率**

0.09 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
85 W＋85 W

**周波数特性**

10 Hz～100 kHz ±3 dB
（8 Ω時）

**入力**

アナログ　SA-CD/CD/CD-R、DVD、TV、SAT、VIDEO 1、2：
入力感度：500 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）

デジタル　DVD（COAXIAL）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：100 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
TV、SAT、VIDEO 1（OPTICAL）：
S/N比：100 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

**出力**　VIDEO 1、SA-CD/CD/CD-R：
出力電圧：500 mV
出力インピーダンス：10 kΩ
SUBWOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

## ビデオ部

**入力／出力**

VIDEO：1 Vp-p 75 Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度／出力電圧：1 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω
$P_B/C_B$、$P_R/C_R$
入力感度／出力電圧：0.7 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω

## FMチューナー部

| | |
|---|---|
| 受信周波数 | 76.0－90.0 MHz |
| 中間周波数 | FM：10.7 MHz |

## AMチューナー部

| | |
|---|---|
| 受信周波数 | 531－1,602 kHz（9 kHz間隔） |
| 中間周波数 | 450 kHz |

## 電源、その他

| | |
|---|---|
| 電源 | AC100 V、50/60 Hz |
| 消費電力 | 145 W |
| 消費電力（スタンバイ時） | 0.9 W（HDMIメニューの「CTRL: HDMI」が「CTRL OFF」に設定されているとき） |
| 最大外形寸法 | 430×157.5×318 mm（幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む） |
| 質量 | 約8.3 kg |

**同梱物**

- FMワイヤーアンテナ（1）
- AMループアンテナ（1）
- リモコン（RM-AAP022）（1）
- 単3形乾電池（2）
- キャリブレーションマイクロフォン：ECM-AC2（1）
- 取扱説明書（本書）（1）
- 接続・設定ガイド（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）
- 安全のために（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機消費電力　0.9 W
- プリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- 包装用緩衝材に紙材料を使用

本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。

# 索引

よくあるお問い合わせ、解決方法などは
ホームページをご活用ください。　**http://www.sony.co.jp/support**

## 使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

## 修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

**FAX（共通）** 0120-333-389　**受付時間** 月～金：9:00～20:00　土・日・祝日：9:00～17:00


ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1


http://www.sony.co.jp/


* 3 2 8 9 4 5 0 0 2 * (1)

Sony Corporation　Printed in Malaysia